

School of Nursing
40th Anniversary

School of Nursing
Chiba University
1975-2015



千葉大学
看護学部

創立40周年
同窓会
記念誌

千葉大学看護学部・
看護学研究科同窓会



School of Nursing
40th Anniversary

School of Nursing
Chiba University
1975-2015



千葉大学
看護学部

創立40周年
同窓会
記念誌

千葉大学看護学部・
看護学研究科同窓会

●表紙の説明●

看護学部の知的さのイメージを黒で、その内面の温かさをさくら色で示しました。さくら色は、千葉大学看護学部の公式カラーでもあります。表紙の時計は卒業生から寄贈されて以後長年使用してきたもので、今も学部内で時を刻み続けています。

歴史のモチーフとして表紙にこの時計を用い、その針は「4」と「0」を指しています。裏表紙はこの時計の振り子です。

表紙デザイン 張 益準 (Chang Ikjoon 千葉大学工学研究科 博士課程3年)

目次

看護学部創立40周年によせて	1
岡田 忍（千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会長）	1
石丸 美奈・石橋みゆき（40周年記念事業企画委員長・副委員長）	2
宮崎美砂子（看護学研究科長・看護学部長・生活創成看護学講座教授）	3
● 1 看護学部・看護学研究科の未来に向けて	4
歴代看護学部長からのメッセージ	
吉武香代子（第6代看護学部長）	5
平山 朝子（第7代看護学部長）	6
前原 澄子（第8代看護学部長）	7
野口美和子（第9代看護学部長）	8
佐藤 禮子（第10代看護学部長）	9
石垣 和子（第11代看護学部長）	10
森 恵美（第12代看護学部長）	11
正木 治恵（第13代看護学部長）	12
看護学研究科・看護学部教授からのメッセージ	
岡田 忍	13
中村 伸枝	13
眞嶋 朋子	14
小宮山政敏	15
北池 正	15
諏訪さゆり	16
山本 利江	16
舟島なをみ	17
手島 恵	18
吉本 照子	18
酒井 郁子	19
神藤 猛	20
野地 有子	21
和住 淑子	21
大塚真理子	22
長江 弘子	23
教員からのメッセージ	24
元教員からのメッセージ	28
卒業生・大学院生・学部生からのメッセージ	29
●● 2 亥鼻キャンパスの今	40
看護学研究科・看護学部の沿革	41
組織図	43
看護学研究科・看護学部 教員一覧	44
看護学研究科・看護学部におけるこの10年間の新たな取り組み	
文化看護国際共同研究センター	正木 治恵 45

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	眞嶋 朋子	46
エンド・オブ・ライフケア看護学	長江 弘子	47
大学院看護学研究科国際プログラム	岩崎 弥生	48
災害看護グローバルリーダー養成プログラム	望月 由紀	49
附属専門職連携教育研究センター	酒井 郁子	50
組織再編 ～変えるものと変えないもの～	中村 伸枝	51
亥鼻キャンパス紹介		54
看護学研究科・看護学部紹介ポスター		56
●●●● 3 同窓生の動向		58
同窓生の勤務地（居住地）別人数		59
同窓生の学位取得（学士・修士・博士）の割合		60
同窓生の職種別割合		61
●●●● 4 同窓会のあゆみ		62
同窓会活動の概要		63
歴代同窓会会長・副会長		64
総会企画一覧		65
同窓会企画 千葉大学看護学部創立40周年記念事業		66
進化し続けるフロンランナー ―看護学の未来を創る―		
同窓会企画 40周年記念事業企画委員紹介		67
編集後記		67



看護学部創立40周年によせて



千葉大学看護学部・
看護学研究科同窓会長

岡田 忍
(3期)

母校がフロントランナーであり続けるために

千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会は、1975年に入学した一期生が卒業した1979年から1年後の1980年に設立されました。2005年に中村伸枝前会長のもとで30周年記念事業を行ってから、あっという間に10年が過ぎ、今年は40周年記念事業を開催することになりました。会員数は、すでに3,000名を超え、2014年度の卒業生が37期になり、同窓会長は、初代の吉岡洋治会長（一期生）から、私で9代目を数えます。

同窓会では、この10年間、同窓生の皆様のご協力によりこれまでの活動を継続するとともに2007年には同窓会のホームページを立ち上げ、同窓会の様々な活動について発信する場を広げました。2011年の東日本大震災の時には入学予定の準会員の方が命を落とされた悲しいできごとがありました。同窓会としては被災地域に現住所や帰省先のある同窓生201名に対してお見舞いのお手紙を送り、震災による学位記や名簿の紛失について問い合わせを行ないました。同窓会からの手紙に対しては感謝のファックスやメールをいただき、卒業後も「同窓生」という絆で結ばれていることを感じることができました。

さらに、ここ数年間は、学術集会参加費の助成など、準会員である学部生に同窓会の存在をアピールするための活動に力を入れており、昨年度は7名の学部生に学術集会参加費を助成しました。このような活動を通して、入学時から同窓会の一員であるという意識を持ってもらえたらと考えています。

40周年記念事業のテーマである「進化し続けるフロントランナー」から、同窓生の皆さんは何を思い浮かべますか？辞書を引くと「フロントランナー」とは「一番先頭を走る人」と書かれています。今、千葉大学看護学部・看護学研究科がフロントランナーとして先頭を走っているということは、その背後にそれまで40年にわたって走ってきた道のりがあるということです。そして、40年という長い道のりを走ることができたのは、特定の誰かではなく、同窓生一人一人が「千葉大学看護学部・看護学研究科での学び」というタスクをかけて、時には立ち止まったり、後退しながらもそれぞれの道を走り続けてきたからではないでしょうか。千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会は、これからも様々な場で活動する同窓生を支援し、結びつけることを通して、母校がフロントランナーであり続けることを支える存在でありたいと願っています。

現在の同窓会の名簿をみると、10期代の同窓生は委員長や副委員長として、教員や大学院生として母校に戻ってきた20期や30期代の同窓生は委員としてそれぞれの委員会の活動に加わっていることがわかります。同窓会でもタスクはつながれ、さらに次の世代に渡す準備が着々と進められています。同窓生の皆様、これからも母校がフロントランナーとして走り続けられるよう、いっしょにタスクをつないで行きましょう。●



40周年記念事業企画委員長

石丸 美奈

(12期)



40周年記念事業企画副委員長

石橋 みゆき

(14期)

40周年記念事業企画委員長からのあいさつ

「進化し続けるフロンランナー ―看護学の未来を創る―」これが、40周年記念事業企画のテーマだ。

今年（2015年）、千葉大学看護学部は創立40年を迎えた。テーマを決めるにあたって、この40年という歳月が千葉大学看護学部においてどのような意味のある年月であったのかを考えた。

1975年に設置されて以来、千葉大学看護学部は40年にわたり国立大学唯一の独立した看護学部として、常に看護学の新領域の研究及び先進的教育プログラム開発に取り組み、日本の看護学を牽引してきた。卒業生数は、今や3,000名にのぼり、その多くが、千葉大学で学んだ看護学を基盤に、教育者・研究者・実践の場の指導者や看護管理者として活躍し続けている。1995年、20周年を迎えた頃は、千葉大学看護学部は文字通り成人として独り立ちを迎えた時期であった。博士後期課程の設置、創造性豊かで柔軟に対応できる人材育成のためのカリキュラム編成など、まさに、創立時に蒔いた種が、先人たちによって丹精込めて育てられ、花開こうとする時期であった。2005年、30周年記念行事のテーマは「歴史と相互交流」であった。この時期、我が国の看護系大学は100を超え、千葉大学看護学部は「伝統校」と呼ばれるようになった。看護学研究科に看護システム管理学専攻が設置され、COEの採択や専門看護師教育課程の認定等々、歴史を紡いできた伝統校に相応しい成果が次々に実を結んだ時期であった。

そして、40年目を迎えた今、私たちは、看護学を切り拓いてきた伝統に誇りと責任をもち、今後も看護学の学術的發展を先導するフロンランナーとして、創造的な教育研究活動と社会貢献を使命とすることを誓い、40周年記念事業のテーマを「進化し続けるフロンランナー ―看護学の未来を創る―」としたのである。2014年4月23日（水）40周年記念事業企画委員会が始動した。企画委員は、学内外の教員・院生を含めた同窓会委員と、看護学部の教員・職員を含めた学部委員の総勢26名で出発し、今回は、同窓生を主体とした記念集会・懇親会と、記念誌の発行・販売を中心に企画した。新たな広報戦略として、2015年2月13日（金）には、Facebookが立ち上がった。全国各地、世界に広がる同窓生と未来を担う在校生に40周年記念事業に参加してもらおうと折々に発信をしてきたところである。

この40周年の節目が、同じ使命をもった同窓生と在校生をつなぎ、看護学部の歴史をふまえた上で、共に看護学の未来を描き、創る一助になることを期待する。●



看護学研究科長・看護学部長・
生活創成看護学講座教授

宮崎 美砂子

つねに先駆的にチャレンジし、進化し続ける 千葉大学看護学部・研究科

千葉大学看護学部は創立40周年を迎えました。創立30周年を祝ってから、あっという間の10年であったと思います。この10年間、日本の看護系大学数は127から241となり、看護系大学院数は修士課程が81から156、博士課程が31から76となり、他の学問分野に見られない勢いで増加の一途を辿ってきました。

国立大学の中で、依然として唯一の看護学部である千葉大学看護学部は、学部教育を基盤に、現在特色ある3つの大学院（看護学専攻、看護システム管理学専攻、共同災害看護学専攻）を有し、学部生340人、大学院生130人が在籍する、わが国の看護学を牽引する人材輩出の中核拠点となっています。

この10年間は、千葉大学が法人化してからの期間であり、部局として、文部科学省の大型競争的外部資金に次々に応募し、時代の要請に応える新たな人材育成の手法の開発にチャレンジしてきた時期でもありました。獲得した資金は21世紀COEプログラム、特色ある大学教育支援プログラム、大学院教育改革支援プログラム、社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム、現代的教育ニーズ取組支援プログラム、概算要求特別経費事業等をかぞえます。このように社会の要請に応える新たな人材育成プログラムを開発・検証し、その成果を社会に発信していく役割を、集中的に経験した10年間でありました。こうした経験は、千葉大学看護学部・研究科とは、先駆的な人材育成の取組とその成果の発信・評価を通して、社会に貢献していくのだ、という意識と責任を、部局内の教員たちに強く印象づけることになりました。

平成25年度に、文部科学省によるミッションの再定義を受けました。千葉大学看護学部・研究科のミッションとは、社会の要請に応える先進的教育プログラムの開発及び人材育成をととして、わが国の看護学の発展を牽引する人材輩出の中核拠点としての役割を果たすことであり、具体的には、“看護学の学術的基盤の充実・発展に寄与する教育・研究者の育成”、“高度な問題解決力・新たな価値体系の創造力・指導力を備えた実践者及び管理者の育成”、“学際的かつ国際的に活動推進のできるグローバルリーダーの育成”を通して社会に貢献することが明文化されました。

今後の10年は、上記の3つの人材育成に対して、千葉大学看護学部・研究科が、学際的かつ国際的な環境の中で、教育研究力を一層高め、千葉大学看護学部・研究科のプレゼンスをより高めていくことであると考えています。自大学の発展のみならず、看護学の発展を牽引していく社会的なミッションをつねに自覚し、これからも社会の要請に応えるチャレンジを先駆的に続けていこうと思います。卒業生・修了生の皆さまとのネットワークを活かしながら、また卒業生・修了生の学舎として、互いに高め合える関係性をもった存在として千葉大学看護学部・研究科が機能できるよう努めてまいりたいと思います。●

1

看護学部・看護学研究科の未来に向けて

千葉大学看護学部は1975年に創設され、また1979年には看護学研究科修士課程、1993年には看護学研究科が改組され博士課程（博士前期課程、博士後期課程）が設置されました。さらに、2002年には看護学研究科修士課程看護システム管理学、2014年には5年一貫の共同災害看護学専攻が誕生しました。2015年3月までに3,133人の学部卒業生、前期課程710人、後期課程158人、修士課程96人の修了生を輩出してきました。日本の看護系大学の中では、これほど多くの卒業生・修了生を輩出している大学は他にはありません。

卒業生・修了生は、時に迷いながらも、それぞれの力を活かして、社会や家庭で活躍しています。同じ大学で学んだ「分かり合える

仲間」として、卒業後も互いに支え合って、日本を、世界を変える力をつけてきています。

日本の看護界をけん引し、看護学部・看護学研究科の長い伝統を支えてきてくださった歴代看護部長／研究科長、現職教員、そして、卒業生・大学院生・学部生から、未来に向けた温かいメッセージをいただきました。

歴代看護学部長からの メッセージ



第6代看護学部長・名誉教授

吉武 香代子

第6代看護学部長からのメッセージ

1987（昭和62）年4月から1991（平成3）年3月まで4年間の任期中に、世は昭和から平成に移りました。1989（昭和64）年1月7日は土曜日の休日であり、私は自宅に居ました。事務当直者に電話して、医学部と相談して校門に半旗を掲げるよう提案したことを記憶しています。翌日から、世は平成になりました。

看護学部は、博士課程設置に向かって精力的に活動していました。幾つもの原案のようなものが、会議で活発に議論されていました。客観情勢を総合して短期決戦ではないと予測した私は、博士課程に熱くなり過ぎて、在学している学部学生や修士の院生の教育が手薄になってはならないと、学部長として警告を発したこともありました。ご承知の通り、博士課程が認定されたのは1993（平成5）年であり、すでに千葉大学を離れていた私に、当時の平山看護学部長が速報をくださったことを記憶しています。

第2次ベビーブームに伴う1988年からの国立大学の臨時増募によって、教授1名が増員になり、どの分野に配置するかが議論されました。丁度この時期に、国立の看護専門学校に「臨床実習調整」という名前の教員が増員されることになり、看護学部にも臨床実習調整の教授を置きたいと提案して、医系ではなく看護系の教授を増員することができました。ただ私は直後に看護学部を離れましたので、ご活躍を見る機会は無いまでした。今となっては、この名前の教授が誕生した経緯を知る人は少ないと思っています。

看護学部を離れて24年、看護教育の場を離れて18年になります。看護学は学問として大きな発展をとげ、大学数も200を超えていると聞いています。1975（昭和50）年の千葉大学看護学部誕生から大きく発展した看護学の大学教育が、看護を受ける人たちの幸せにつながっていることを、かつてその中にあって自分なり精一杯努力したものとして、遠くから切に願っています。●



第7代看護学部長

平山 朝子

看護学部・研究科の未来に向けて

40年の実績で最も顕著な成果は、人材育成の確実性です。いま、卒業者が多数大学教員や実践の指導層として、全国で活躍しています。私は、2000年3月退職以降、千葉大卒業者の活躍ぶりや歩みの状況に深い関心を寄せてきました。わが国の看護学教育の先鞭をつけ、基盤を築く役割を担って開学した本学も、自学の卒業者が大学進展の中核を担うようになり、着実に発展しています。

この時期に、未来の在り様を探るには、まずはわが国の看護学分野の教育研究活動の現状分析に基づく大学・大学院の社会的使命と役割について、今日的在り様を示すことが何よりも大切だと思います。個々の大学の役割は、国・公・私立それぞれ異なった基盤を持っています。とりわけ、国立は法人化後、大学自体の在り様も個々に多様化しています。学部・研究科の「理念」は、それ自体変わらずとも、諸種の「戦略」を変えつつ発展を諮るべきで、教職員の意思と努力が期待されます。

私は、開学16年目からの4年（1991年4月～1995年3月）の学部長業務を担った者ですが、当時は、高齢社会に向け看護職者の資質向上のため、「看護学の学士課程の一般化」が国及び地方公共団体の社会目標とされた時期でした。国立唯一の学部なるがゆえに、教育実践の検証が多彩な事項で厳しく迫られました。設置基準改訂に基づき教育の資質を自律的に担保するために、看護学教育分科基準（大学基準協会）の策定など、本学の確実な実績に基づく貢献ができました。これらの学部の貢献の過程では、私個人の大学管理に係る学びは極めて大きく忘れがたいものです。

千葉大学が看護学を独立した専門分野と位置づけたことは、わが国の看護学教育発展の歴史の中で極めて意義深く、国立大の学部・研究科体制の枠組みの中で、人材育成発展の源を培うことが課されました。前例皆無の状況下で、看護学固有の教育研究を模索し、基盤を創り出すという独自の作業を重ねてきたのです。こういった事実と実績に関し、自負と責任をもって議論を重ね、今後の姿を描いて欲しいと思います。●



第8代看護学部長・名誉教授

前原 澄子

40周年を迎えて

1995年学部長を仰せつかった年に、創立20周年を祝ってから20年を経たのかと、年の経つ早さに驚きながら、千葉大学看護学部就任時代の頃の思い出が走馬燈のごとく頭をよぎります。

千葉大学を辞して後、公立と私立の大学・学部づくりに携わりましたが、千葉大学で学んだことが、どんなにか役に立ったことでしょうか。あらためてその存在の大きさを感じ入っております。

40年前の創立当時は、その存在価値を社会が諸手を挙げて歓迎したわけではありませんでした。苦しいこと、悲しいこと、悔しいことの連続でした。でもそれらがバネになったのでしょうか。教職員・卒業生・在学生のがんばりが、現在を築いたのです。

ちょうど私の一代前の平山学部長の頃から、社会は大学改革に取り組み出しました。従来の習慣にとらわれずに、古いものは勇気を持って破壊し、創造性豊かな人材育成のための、教育の在り方の取り組みが始まりました。

生涯教育のための、社会人特別選抜・大学院設置基準第14条適用・科目等履修生制度等、教務委員会、教授会の激しい議論を経て採択されました。強い反対もあった案件の一つですが、現在看護学教育にどれほど役立っているかはご承知の通りです。

大学改革への千葉大学看護学部の果敢な挑戦は、現在の看護大学の在り方に大いに参考になっていると言っても過言ではないでしょう。

何より嬉しいことは、その後新しい大学づくりをともに頑張ってくれている卒業生が、この千葉大学看護学部の精神を見事に受け継いでくれていることです。今後の看護学教育に卒業生がリーダーとなって進めてくれることは疑いもないことと信じています。●



第9代看護学部長
野口 美和子

これからの千葉大学看護学研究科・看護学部 に期待すること

千葉大学看護学部設立40周年おめでとうございます。学部長をしていた時、いろいろなことがありました。なかでも印象に残っていることが二つあります。

まず看護システム管理学の開設準備をしたことです。その当時、現職の看護管理者の能力開発を大学院で行っているところはありませんでした。医療の高度化だけでなく、高齢社会が到来し、日本のいたるところで変化に対応できる看護管理者が必要とされていました。そのため現職の看護管理者の学習を大学院で支援し、そのまま職場で組織改革をしていけるようなコースが必要と考えました。その当時、看護管理者の多くは大学卒ではなかったので、入学者の確保が困難であると予測しました。ところがちょうど文部科学省が出願資格について改正を行い、大学卒でなくても入学資格審査を研究科で行い、大学を卒業したものと同等以上の学力があると認めたものであれば、大学院入学試験に出願できることになりましたので、その制度を真っ先に取り入れて看護システム管理学を立ち上げました。

ちょうど同じころ、医学部が亥鼻キャンパスの医学部、看護学部、薬学部の大学院を統合し大学院大学にするというアイデアを提案してきましたが、断りました。このことも印象深く記憶に残っています。看護学の自律性を維持し、看護学の専門性をより追求すべき時でしたから、どうしても看護学研究科は独立させておきたかったのです。看護学部として独立していること、看護学研究科として看護学の知見を創出していくことは千葉大学看護学部の使命だと考えたからです。

これら二つのことは、現在の看護学部・看護学研究科を見れば、とても良い判断だったと思っています。

これからの看護学部を期待することは、私がこだわり続けていることでもあります。日本の文化、風土に根差した看護実践の知見をさらに積み重ねていっていただきたいということです。どんなにエビデンスが明確な実践方法であろうとも、看護の対象となる人たちに受け取ってもらわなくては意味がありません。そのためには、文化に根差した看護方法が求められると考えています。国立大学唯一の看護学部であることを自覚して発展させていっていただきたいと願っています。●



第10代看護学部長・名誉教授

佐藤 禮子

「進化し続けるフロンランナー」としての 発展を願って

何よりもまずは、「看護学部創立40周年」おめでとうございます。

私が看護学部長を拝命したのは、平成13年4月、今を去ること14年前でした。10年ひと昔と言われるように、時は矢の如くに過ぎ去っておりますが、看護学部の輝きは今も変わりません。学部長時代の印象に残っている出来事は、と問われて色々思い出していた時に、学部長が語る“わが看護学部”千葉大学（旺文社刊、蛭雪時代2002年7月号）「看護学の高度化に対応した教育・研究をになう国立大学で唯一の学部」なる掲載記事のコピーが目につきました。それには、“学部長殿、大学説明会の資料として追加します”というメモ書が付いていました。自分でもびっくりしつつ読み進むうちに、文中の『看護学部での4年間は、幅広い教養を身につけるとともに、専門的知識と技術・態度を養い、実践者としての自分づくりに専念する4年間です』という一節に目が止まりました。さらに『人は、どのような状況にあっても、心を明るくする優しさや暖かさに触れることで、力がわき元気が出ます。人に優しく、明るく、めげない人、そして、賢く考えることのできる人、そんな人こそわが看護学部が求める人材です』という最後の一節です。

私自身、現在まで看護学を教える立場にあって、多くの看護専門職者と関わってまいりました。そんな中で得た確信は、千葉大学看護学部の卒業生は、看護専門職者としての基盤あるいは素養といわれる、自分づくりが出来ている、という事です。大学教育では、多くに、人間形成、人格形成といった文言が加わります。生涯学習として常に専門的に経験を積み重ね、学び続けることによって培われる看護専門職者の能力の基盤は、真に4年間で形成され、最も重要となる、看護専門職者としての自分、という人格です。最近になって気付いたことは、私の求める看護専門職者としての自分づくりは、自分の立場ではなく、相手の立場に立つことができる、そして、相手の考えや思いに寄り添おうと努力することができる、物事を柔軟に考え対応することができる、といった人格形成であり、何よりも重要である、ということです。それを気付かせてくれたのは、千葉大学看護学部卒業の方々でした。

「進化し続けるフロンランナー」としての益々の発展を心から祈念しております。●



第11代看護学部長

石垣 和子

メッセージ

開学40周年おめでとうございます。私の在任期間には30周年記念事業があり、今は故人となられた見藤隆子先生にご講演いただいたことを思い出します。

私は、看護学部に着任後3年目に学部長を拝命しました。千葉大学看護学部教育理念が十分には呑み込めておらず、頼りなかったことと思います。それにもかかわらず、好意的に迎えていただき、徐々に千葉大学看護学部の理解を深め、あらためてこの学部の存在の偉大さ、その影響の大きさを実感しました。

右肩上がりに看護系大学の増加が続く今日です。教授陣を求めて、今後はますます千葉大学看護学部出身者への期待が高まることが想定されます。卒業生に共通する確実な看護観や緻密な気配り、実践に身をおき実践と共にある発想や行動は、教育研究においても実践においても、そして看護政策においても、日本の看護をリードする原動力となると思います。在学生・卒業生の皆さんは、求められたら、そして場合によっては自分から、臆せず活躍の場を広げていただきたいと思います。

私が学部長だった時代の思い出は、21世紀COEプログラムに採択されて、「日本文化型看護学の創出・発信拠点」としての研究を5年間行ったことです。今日と違い、当時はGPのはしりの時代で、私たちはわけもわからず、年間1億円規模の予算がつくといっても実感も湧かないという状況でした。呑気に進めていて悪い中間評価をいただいてしまいました。駆けつけてくれた医学部の徳久先生（現千葉大学学長）、丹沢先生に励ましていただき、やっと事の重大性に気がついたという有様でした。当時は森恵美先生が評議員で、一緒に大学本部や文科省の審査に出かけ、文字通り汗を流したのは懐かしい思い出です。これを受けて文化看護学会が発足したことも付け加えます。

看護学部のますますの発展をお祈りします。●



第12代看護学部長・
千葉大学副理事・
生活創成看護学講座教授

森 恵美

看護学部創立40周年に寄せて： 次世代の育成・継承と発展

千葉大学看護学部創立40周年、誠におめでとうございます。

第1期中期目標中期計画の期間である平成19年度に、私は40歳代で学部長に就任しました。全国的にみても若い学部長でございましたが、卒業生の学部長就任ということで、千葉大学看護学部は次世代への継承が上手く進んでいると評価され、大変光栄に思ったのを覚えております。お陰様で、歴代学部長、恩師である元教授陣から多くのことを教わり、同僚や多くの方に支えられ、看護学部長としての役割を果たすことができたと思っております。

平成19年度は21世紀COEプログラムが最終年となり、国立大学法人への運営費交付金が減額される中で、大型競争的資金獲得に教員一丸となって頑張りました。その甲斐が有り、看護学部関係者で4つの競争的資金獲得に至りました。大学機関別認証評価、平成20年度の第1期中期目標期間における教育研究評価に係る訪問調査によって、千葉大学全体に対して看護学部・看護学研究科の教育研究活動について周知をすることができたと感じ、大学院重点化を申請しました。この重点化により、日本における看護学を牽引している本研究科の位置づけを更に強固にすることができました。この大学院重点化は看護系大学の学長・学部長からも高く評価され、本学の組織活動も日本全国から関心をもたれていることを実感し、看護学のフロントランナーである自覚と責任を感じました。現在も、教育研究活動でもフロントランナーであるよう、私は一教授としての誇りと責任を果たし、次世代の育成・継承を心がけています。

また、平成18年から従事している千葉大学の女性研究者支援、ワーク・ライフ・バランス支援事業についても力を注ぐことで、看護学研究科、千葉大学を越えて社会貢献をいたしております。創立40周年を迎えたからこそできる、看護学の立場からの社会貢献を一人ひとりがしていくことを期待しまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。●



第13代看護学部長・
先端実践看護学講座教授

正木 治恵

組織運営に携わって

任期中（平成21年4月1日～25年3月31日）に印象に残っている事柄を二点述べたい。私が看護学研究科長・学部長に着任した当時は、看護学部から看護学研究科に部局化された時期であり、あらためて本研究科・学部の組織目標を確認する必要があった。前年度より学長特別補佐企画として、教員、職員、学生および卒業生・修了生と取り組んでいたこともあり、「千葉大学看護学部の底力宣言 一つなく！看護学の知、絆、礎一」を組織目標として提示した。3つの目標は下記の通りである。

目標1：つねにより高きものを目指すナース・サイエンティストの育成

目標2：フロントランナーとしての知の「創出・統合・発信」

目標3：個人、地域、日本、アジア、世界のそれぞれに力点をおいたパイオニアへ
これらの目標はリーフレットに明記し、本研究科・学部の入学生に毎年配布した。「ナース・サイエンティスト」という用語は、既に看護学研究科の教育目的に明記されていたが、あらためて提示することによって、研究科設立当初の理念を再認識することができた。同時に、それを学部に入學した学生にも提示することができた。この取り組みにおいて何よりうれしかったことは、学部生からの、卒業式の謝辞において「我々はナース・サイエンティストとして……」と謳われたことであった。理念が浸透し、次の世代に根づいていくには年月を要するが、着実に根づいていると実感できることは、この上ない喜びである。

任期中に印象に残っていることのもう一つは、平成23年3月11日に起こった東日本大震災である。想像を絶する震災のあり様に驚愕するしかなかった。大學入學を予定していた若者も失った。残された者の使命として、大學人はその体験や想いを次につなげていくことだと思った。平成24年度に博士課程教育リーディングプログラム「災害看護グローバルリーダー養成プログラム」が採択され、26年4月には本看護学研究科内に共同災害看護学専攻が開設された。

その時々、時代や社会から要請されるものがある。その機運を敏感に感じ取り、種を蒔き、豊かな土壌にしていくことも、大學人に求められることのように思われる。●

看護学研究科・看護学部教授からの メッセージ

看護学専攻

先端実践看護学講座

岡田 忍 …… Pay it forward

10年前の2005年9月に「歴史と交流」というテーマで30周年記念行事が開催された。元教員によるリレーシンポジウムのシンポジストとして病態学教育研究分野の初代教授である橋爪先生（現在は名誉教授）が参加された。シンポジウム終了後、橋爪先生と橋爪先生から講義を受けた自分、そして私の講義を受けた卒業生が同じ場にいるのを目にした時に、これが30年という歴史の重みなのだと感じたことを今でも鮮明に記憶している。平成26年度には看護系大学が226校に達する中で、卒業生が母校の教員として戻り、さらに次の世代の卒業生を送り出しているという大学は数えるほどしかない。創立40周年を迎え、千葉大学看護学部・看護学研究科が何を目的として創設されたのか、創設にかかわった先生達がそこにどんな思いを込めたのか改めて思い起こし、母校が自分に与えてくれたものを次の世代に手渡すという責任をより一層強く感じている。●

先端実践看護学講座

中村 伸枝 …… 10年後に向けて

千葉大学看護学部が20周年を迎えた時、私は博士後期課程に在学中であり、30周年の時は同窓会長をしていた。40周年までの10年間を振り返ると、医療や大学を取り巻く社会の変化に対応しているうちに10年経ってしまった印象を受ける。小児看護学教育研究分野では2004年に専門看護師教育課程として認定され、2015年3月までに14人が課程を修了、9名が認定を受けている。教育課程の修了者あるいは認定者の様々な活躍や困難は、現在の日本における看護の発展や課題を映し出しているとも感じている。大学においてグローバル化と世界水準の研究がキーワードになるなかで、人々の生活のなかにある看護にこれらを焦点化していく難しさを感じる10年でもあった。看護学部が50周年を迎えるときには次の世代の教員が主体になっている。次の世代の教員が夢や志をもち、看護学の実践・教育・研究者として力をつけていくことを支える10年にしたいと考えている。●

眞嶋 朋子 …… 成人看護学領域の看護実践の開発と研究を目指して

この10年間のうち特に印象に残っていることの一つは、21世紀COEプログラムに参加し、成人看護学領域の教員や博士後期課程の学生が、他の専門領域の教員や学生と共に、文化に根差した看護学のための研究方法論について議論を重ねてきたことが挙げられます。この時に、専門領域の発展だけでなく、個々の領域にある共通のテーマを、探求していく重要性が再確認されました。これらの経験は、その後に採択されたがんプロフェッショナル養成プランや、日本財団からの寄付によるエンド・オブ・ライフケア看護学の教育・研究における複数の領域間連携に生かされていると思います。

平成17年度から平成26年度まで10年間、成人看護学領域で博士後期課程を修了し、博士の学位をえた8名は、看護系大学の教員として活躍しています、博士前期課程を修了後、修士の学位をえた52名は、医療機関でがん看護専門看護師（内20名）や、看護系大学の教員として活躍しています。

平成23年度からは、博士前期課程における大学院生の指導教員として、准教授の増島麻里子先生が、修士論文の指導をしてくださり、より専門性の高いがん看護について教育、研究の充実が図られています。また、論文の質を高めるために、助教の柴田純子先生（平成20年度退職）、神間洋子先生（平成20年度退職）、渡邊美和先生、楠潤子先生、特任准教授・長坂育代先生、特任講師・田崎牧子先生（平成22年度退職）が、サポートをしてくださいました。今後は更に、がん看護、急性期循環器看護、緩和ケアの領域で、高度実践看護の方法や評価方法を開発し、看護実践が医療分野に与えるインパクトを明らかにするような研究をしていきたいと考えています。●



小宮山 政敏 …… 機能・代謝学から生体看護学へ

平成27年度の教育研究組織改組により、従来の機能・代謝学教育研究分野は健康増進看護学教育研究分野に入り、専門領域「生体看護学」として教育研究を担うこととなります。これは看護の視点から人体の構造や機能を探求し、得られた知見を健康増進や看護実践に活用して行こうとするものです。私はもともと解剖学が専門であるため、教授就任以来、学部生用に骨学実習、大学院生用に肉眼解剖学特論（講義・演習）を取り入れ、また解剖見学の機会を増やしてきました。今後はそれらの改良を行うとともに、生理学的な視点からの研究・教育もさらに充実させて行きたいと思います。また、従来は大学院生の受け入れが博士前期の学生に限られていましたが、今後は博士後期の学生も受け入れて行くこととなります。臨床に就いた看護師の方々からは「基礎を身につけておくことが大事」という声をよく耳にします。それらの方々や学部生が「もっと人の身体のことを知りたい、生体看護学を追求したい」と思えるような、魅力的な研究・教育を展開して行きたいと思っています。●

北池 正 …… 健康管理看護学のスタート

創立40周年おめでとうございます。この節目の年に、新たに「健康管理看護学」が誕生し、担当することになりました。従来の「保健学」を改組したものになりますが、学部教育で担当している疫学、保健情報学、環境保健学をベースにした看護学の教育者・研究者を育成する博士後期課程をもつこととなります。学際的とは古くから言われていますが、看護学を発展させるために、他の学問領域の考えを取り入れることは大切であり、そのためにお役に立てればと思っています。

「健康管理看護学」は、研究科再編グループでつけてくださった名称ですが、私の専門が保健管理学であり、今も大切にしている恩師の著書が「健康管理論」です。また、看護学教育に携わったのが1993年であり、20年以上を経て、ようやく健康管理と看護学が融合したことに感慨深いものがあります。これからは、その内容を充実させていくとともに、後継者を育成することに尽力したいと思います。●

諏訪 さゆり …… これからの在宅ケアを 千葉大学看護学部が拓くために

私は看護学部10期生として入学して以来、先生方や先輩の皆様から看護学部創生期の熱い思いに触れるとともに、多くの同窓生たちが看護界の伝統を大切にしつつも革新をもたらし、社会へ貢献していく様子に勇気をいただけてきました。看護学部で学べたことに感謝し誇りに思っています。

日本は超高齢社会を迎え、病院や施設完結型医療・ケアから地域包括ケアシステムへと医療・介護制度は転換しています。この動きを確かなものとするべく、私はこれからの10年間、新卒者を含めて訪問看護師が活躍できるよう尽力していきたいと思っていますし、在宅生活の継続を可能にする認知症ケアスキル、独居高齢者を支えることのできる社会の質などの研究テーマを中心にチャレンジしていきたいと考えています。その活動の中で、千葉大学看護学部が日本だけでなく、アジアの在宅ケアを牽引する教育研究者を輩出できるよう、微力ながら役割を果たしていく所存です。●

山本 利江 …… 看護学の継承と発展 ～基礎看護学から理論看護学へ～

初代教授薄井坦子先生は教え子に、不撓の原理をもち、持てる力を最大限に発揮して生きることが求め、私たちは周囲からの揶揄を怖れず、看護の本質を貫く教育・実践・研究を追究しています。このたび私たちは呼びなれた基礎看護学から新たに理論看護学を掲げることにしました。その一番の理由は、学生のみなさんの変化を感じとったからです。フロレンス・ナイチンゲールは、人はその人間性がよい素質を持ち、よく教育され、よく働かせているかに比例して真理を受け入れると述べています。日本は敗戦後の困難を乗り越え、世界に類のない発展を遂げ、今や世界中から日本文化が注目されていますが、私は学生の誠実さや優秀さを日々目の当たりにして、人間性のよい若者が増え、ここに集まっていることを実感します。ですから看護学部のなかで私たちの役割は、徹底して真理を追究する姿勢を学生に示すこと、それを理論看護学という名称に込めたのです。旧基礎看護学教育研究分野からは2名の文部科学省看護専門官を輩出し、彼女たちは林立する看護系大学の現状を深く憂い、看護の本質を実現する社会をつくるために闘っています。学生及び卒業生のみなさん、志を高く掲げ、人間性を堂々と発揮し、誇りをもって働き、奮闘してください。●

舟島 なをみ …… 50周年に向けての目標

「卓越した研究能力を持つ看護職者の養成」

千葉大学看護学部が40周年を迎えられましたこと、心より嬉しく思っております。また、看護学部が看護学部として40周年を迎えるためには、総合大学としての千葉大学における全学的な理解が必要であり、その理解を得るために看護学部の教職員、同窓会が多大なる努力をしてきたことは言うまでもなく、今後もこの努力を継続していかなければなりません。

さて、来る50周年に向け、フロントランナーとして私たちはどのような役割を担っていくべきなのでしょう。2014年、日本の看護系大学は234校、看護系大学院は152校になりました。多くの大学が今、「国際的にも通用する卓越した研究能力」を持つ看護職を希求しています。千葉大学看護学部がこれまで輩出した人材やその教育の過程を通して培ったノウハウの活用により、「卓越した研究能力を持つ看護職者の養成」という社会のニーズを充足できると思います。また、千葉大学こそがこの役割を担える大学であると確信しております。●



看護システム管理学講座

手島 恵 …………… グローバル時代の基準を創り出す人

千葉大学に着任してあっという間に10年余りが経ちました。この間、高齢社会を見すえて次々と始まる医療制度等の改革という大きなうねりに、看護管理者も対応が迫られています。平成14年にスタートした看護システム管理学も多くの修了者を輩出し、病院看護システム管理学では、平成26年3月には50番目の修了者を送り出しました。看護学部卒業生もこの課程を修了し看護管理者として活躍されています。

看護学部の新入生には「国際舞台で活躍したい」と夢を語る人が少なからずいて、頼もしい限りです。これからは国内にあってもグローバル化の影響を受ける時代になります。病院の国際水準の審査など、その一例といえるでしょう。アジアにおける日本の役割も、これまで以上に重要になっています。このような時代にあって、次世代を担う方には、日本の美徳とされる精神も大切にしながらバランスを取り、リーダーシップを発揮し、国際社会における基準を創り出す人材が育つことを願っています。●

看護システム管理学講座

吉本 照子 …………… 核を大切にしながらさらなる進化に貢献したい

千葉大学で早18年。初めて来た時、バス停脇の崖（と言われましたが、階段）をよじ登ってくるように案内されたことを、雪の日に滑らないよう注意して降りるたびに思い出します。

実践・研究・教育いずれも大切してきたことが、看護学研究科・看護学部の多様な先進的プログラムとして実りつつあるように感じます。50周年に向けてさらなる進化が期待されていますが、どれかを切って焦点化という方略を採らずに、大変な思いをしながらも、自らに期待される役割を引き受け、急な崖でも自力でよじ登るという核を大切にしていくことにより、各々の力量が高まり、さらなる進化が可能になるように思います。こうした看護学部のしっかりした基盤をつくり、博士後期課程まで開設された先生方に、心から感謝申し上げます。50周年までの途中で私は戦線離脱しますが、残りの在任期間に精一杯看護学部・研究科の活動に取り組み、次世代に実りを渡したいと思います。●

酒井 郁子 …………… 君の10年を力を尽くして生きなさい

宮崎駿監督の長編アニメーション映画「風立ちぬ」のラストシーン。夢の中で主人公の堀越二郎に、カプローニが「この10年、力を尽くしたかね」と問いかけます。

二郎は、自分の夢であるゼロ戦を作りあげるのですが、無事に戻って来た機体はありませんでした。飛行機の残骸を眺めながら「はい、終わりはズタズタでしたが」と答える二郎。

30周年記念の時には同窓会の実行委員長でした。あれから10年、全力疾走してきたように思います。ケア施設看護システム管理学、博士課程看護管理学、亥鼻IPE、専門職連携教育研究センター、これらの立ち上げに関わり、軌道に乗せようと奮闘した10年間でした。

「風立ちぬ」で残骸となったゼロ戦。その一本のボルトから、国産ロケットが開発され、それが小惑星探査機はやぶさにつながっていきます。看護学部・看護学研究科も、50周年に向かう次の創造的な10年、力を尽くして生きていかねばならない、と考えています。●



災害看護学講座

神藤 猛 …………… 未来へのアプローチその歴史と貢献

古来より人が人を助ける仕事ほど崇高な仕事はなく、今や急激な人口動態の変化が予測される国際社会で、次世代を担う看護師の育成は喫緊の課題となっています。今日のビッグデータと全てをつなぐ第3世代の情報プラットフォーム（IoT）及び人工知能は、社会に劇的変革をもたらし、人々をケアする看護の世界においても大きなポテンシャルを秘めています。21世紀の思索し判断する看護師の創造的価値観とリーダーシップ、高邁な倫理観を備えた人格の育成は、看護を飛躍的發展に導く鍵と考えられます。先端的科学技術と経験を重んずる看護学習と技能習得の深層には、欧米の合理的、技術的な世界観には見られない、わが国独自の華道、茶道、能のような日本文化の伝統的心を重視する、重層的で深く比類のないアートとしての日本看護の哲学があると云われます。わが国唯一の看護学部として、輝かしい伝統と崇高な使命を担う本学部の益々の発展が望まれています。●





野地 有子 …………… 世界に開かれた千葉大学大学院看護学研究科へ

創立40周年を迎え、国際化の視点でも新たなステージが展開されようとしています。平成26年度には千葉大学は国際化拠点整備事業のスーパーグローバル大学創生を開始しました。看護学研究科でも、海外の大学との協定関係を推進し、学生や教員の交流を進めています。特にこの10年では、アジア圏における交流が活発になってきています。そこでは、英語がコミュニケーションツールになることから、本研究科では5年前より日本で三誌目の英文ジャーナルを編集発行しています。また、国内の交流推進では、附属看護実践研究指導センターにおいて、教育と実践と研究を「つなぐ」をテーマに、病院の看護管理者や看護系大学の教員等を対象にした研修やワークショップ、共同研究を通して、看護学発展のプラットフォームとしての役割を遂行してきています。システム管理学専攻の新領域「実践看護評価学」では、最初の修士修了生を世に送り出したところです。人生を通した長い看護のキャリア発展において、学内だけでなく国内外から、本研究科に集い交流を育むナースの学び家としての歩みを先輩や恩師の努力に思いを馳せ、すすめてゆきたいと考えています。●

和住 淑子 …………… 千葉大学看護学部創設の経緯と私たちの使命

創立10周年は学部生、20周年は大学院生であった。30周年記念式典には看護教育専門官として文部科学省の立場で出席した。その後千葉大学に戻り、教員として40周年を迎えた。

全国を見たことで、看護の大学教育化の急激な進展の流れとは一線を画す、千葉大学看護学部の特異な立ち位置がわかると同時に、改めて、大学教育がほとんど行われていなかった当時、なぜ千葉大学に看護学部がつくられたのかについて、興味を抱いた。そこで、前任の大室律子教授とともに、創設当時の関係者にインタビューし、『千葉大学看護学部創設の経緯』を紀要にまとめた。その結果わかったのは、教員不足と専修学校を前提としたカリキュラムや免許制度の制約の中、先見の明をもった複数の人々の、並々ならぬ看護学への期待と情熱、労苦の中で、千葉大学看護学部が創設された、ということであった。

40年を経た今も、これらの課題の抜本的な解決には至っていない。千葉大学看護学部に育った私たちには、これらの課題に学問的見地から応えていく使命があると思っている。●

大塚 真理子 …… 求め・求められ・チャレンジを

私は3期生で看護学部を卒業した。当時は看護学部の創設期であり、看護を学問として確立しようという先生方の情熱が感じられた。私も知らず知らずのうちにその影響を受けていたのかもしれない。卒業後は、看護師として3年働いた後、看護系短期大学に勤めた。時代が求めていたと思う。看護系大学が増えて必要に迫られ、40代近くになって千葉大学大学院看護学研究科に進学した。修了後は新設大学で、求められる役割は果たした。そして2014年10月、母校が新たな取り組みを始める時に着任することとなった。振り返れば、千葉大学看護学部の卒業生として社会の求めに応じながらも、自らのチャレンジをしてきたのだと思う。

次世代を担う看護学部の同窓生には、看護界にとどまらず、様々な分野で活躍することを期待する。世界の動きはめまぐるしい。看護の思想、看護の手を求めている人々がたくさんいる。社会の動きと将来の予測をしっかり見据えて、自らの看護の力でチャレンジしてほしい。●



看護学部、医学部、薬学部の3つの学部からはじまったうねりが、新しい風を取り込んで大きくなっていくことをイメージしたIPERCロゴ



2015年3月15日に行われたIPERC開設記念シンポジウムの様子



長江 弘子 …………… 40周年を祝して

千葉大学看護学部40周年、誠におめでとうございます。ご縁があって千葉大学大学院看護学研究科に着任して5年になりますが、私が高校生だった頃から憧れていた本大学にこうして一時的でも籍を置いている幸を感じています。唯一の国立大学看護学部である本学は、看護学にアイデンティティをもつ教員・学生が集まるところであり伝統が支える組織的な凝集性を基盤としつつ、常に独創的で未来を拓く原動力と情熱溢れた企画力で社会の要請に応える先進的教育プログラムの開発及び人材育成を行っているところであると肌で感じています。本学はこれまでも、これからも日本の看護学をリードする存在であり、看護学の学術的基盤の充実・発展に寄与する若手の教育・研究者の育成が使命ですが、より地域社会に開かれる大学としての機能を強化し社会との交流を持ち、より豊かな感性を磨きながら学び合い、新しい領域や教育を創造していく基地なのだと思います。●



教員からのメッセージ

先端実践看護学講座

佐藤 奈保……………●

進む方向は前や上だけじゃない。寄り道したり、けもの道に分け入ったりすることも、新しい道を拓く大きな一歩となる。但し、足元には常に注意を払おう。

楠 潤子……………●

ここで学んだひとりひとりが社会で力を尽くすことが、母校をいつまでも成長・発展し続ける存在にし、支えていくことにつながるのだと思います！

仲井 あや……………●

教育・研究・実践を通じた出会いと繋がりに感謝しております。

渡邊 美和……………●

私は20期で、また40周年の節目に大学にいるのは感慨深い。
卒業生、修了生一人一人の歩みが看護学の未来を創って行くのでしょう。
みんなで頑張ろう！

石橋 みゆき……………●

40周年を迎え、私たちの歩みが日本の看護学の成熟・発展と同じ軌道をたどっていることを様々な面で実感しています。次の世代が千葉大学で看護学を学んだことを誇りに思えるよう、卒業生・教職員・在校生で一丸となって進化し続けたいと思います！

小川 俊子……………●

40周年、おめでとうございます。育てることの重みを感じつつ、研鑽続けてまいります。

高橋 良幸……………●

創立周年と私の誕生年が近く、人の年輪と重ね考え深い次第です。40年の歳月を考えると、諸先輩の礎の元に今有ることを噛みしめ、その伝統を少しでも伝承していけるように心新たにいたしました。

増島 麻里子……………●

卒業後の道は、人それぞれ☆でも、緑豊かな亥鼻Campusで多彩な仲間に出会い、ともに看護学を学んだ経験は、何らかの形で自分のrootsになっているはずです。

佐藤 さやか……………●

創立40周年という節目に助教となり、看護学部との深い縁を感じずにはいられません。看護学部のさらなる発展に貢献していきます！

金丸 友……………●

創立40周年を教員として迎えられたことを、大変嬉しく思っております。先輩方の築いた功績を実感する毎日です。

戸田 由利亜……………●

記念年に再び亥鼻キャンパスで過ごせるようになり、感慨深いです。卒業してからも学び舎の活躍と発展を感じられて恵まれているなとつくづく感じています。

生活創成看護学講座

能川 琴子……………●

40周年の記念となる今年度、母校に教員として戻って参りました。多方面で活躍される先輩方・同学・後輩の皆様のように、学生の皆さんが自身の様々な可能性を見出すサポートができればと思います。

岡村 実佳……………●

40周年のこの年に、助手として再び大学に戻ってることができ嬉しく思っています。教育の難しさを感じ、こうやって育てていたれていたのだな、と教えていただいた先生方に感謝しています。

辻村 真由子……………●

訪問看護学の教育・研究活動を通じ、あらゆる年代の疾患・障害を有する人々が希望する場所で安心して生活できる社会の実現に貢献したいと考えています。個人および教育研究者として、「限界への挑戦」を続けていきます。

野崎 章子……………●

進

青木 恭子……………●

教員になり早三年目、教育に携わせていただくことは、ありがたいことです。日々、学生の成長に励まされております。少しでも千葉大学の発展に寄与でき、うれしいです。

石丸 美奈……………●

「玄鼻カルチャーに入り込み、『人生のメンター』に出会って、一生の財産ができる」今も100年後もそうでありたい。

坂上 明子……………●

最初の一歩を踏み出そう、そして、世界を変えていこう！

田中 裕二……………●

1975年に機能・代謝学講座として発足した当研究室は、本年4月からは生体看護学領域になりました。

つねに、看護基礎科目を教授してきましたが、実践では重要な知識だと思えます。そのことを念頭に、さらなる教育内容の向上に努めたいと思います。

飯野 理恵……………●

母校の教員になって7年になりました。先生方や先輩から教えて頂いた「看護のすばらしさ」や「看護学の楽しさ」を後輩に伝えられるよう、頑張りたいと思います。

小坂 麻衣……………●

母なる山、玄鼻。私の人生の半分を知る。子ども達は原材料：学食。未来を創る山、玄鼻。

小澤 治美……………●

“The creation of a thousand forests is in one acorn.”

玄鼻発の可能性は無限です。

池崎 澄江……………●

ときに野心を

館 祥平……………●

今後50年、60年に向けて千葉大学看護学部が千葉大らしさを存分に発揮し、看護の世界をリードしていくことを期待しています。

時田 礼子……………●

縁あって、40周年記念の年に母校にいます。50周年の時に、私はどこにいるかしら…そして、それまでにどれだけたくさんの同窓生に会えるかしら……楽しみです♪

文化創成看護学講座・災害看護学講座・ 看護システム管理学講座

杉田 由加里……………●

本校で教員となり、通算8年目となりました。日々院生と学び合っております。同窓生ネットワークに日々、助けられ本当に感謝です。

飯田 貴映子……………●

「看護学を修めるなら日本の千葉大学」と世界から評価されるよう、看護学部・看護学研究科に関わる全ての方々とともに、より高きものを目指していきましょう！

永田 亜希子……………●

人々が生き活きと暮らしていけるように、様々な領域、立場、環境で、共に頑張っていきたいですね。

黒河内 仙奈……………●

将来、仕事で一緒にできる日を楽しみにしてます。それまで私も仕事を辞めずに頑張ります。

中山 登志子……………●

フロントランナーとしての自覚と誇りを持ち、その責任を果たすべく、在校生を含む千葉大同窓の看護職者の方々と英知を結集し、看護学の未来を共に創っていきましょう。

阿部 由喜湖……………●

どのような時代にあっても“原点はここにあり”と、諸先輩方が築きあげた伝統の上に、さらに発展していくことを楽しみにしています。

望月 由紀……………●

人間とは生命体と生活体から成る重層的な存在です。生活には衣食住だけでなく様々な文化や価値観も含まれるため、時に哲学的観点がその理解を助けます。様々な学問領域から人間を深く理解するための知識を学んでください。

伊藤 尚子……………●

築いてきた歴史と、拓いていく未来！「今」そこにいる自分を誇ってください。

臼井 いづみ……………●

変化を恐れず新しい未来を切り開け！国際標準を自らの基準とし、専門職としてのプライドと自信を持って羽ばたく人材育成を！



千葉駅前の花のオブジェ



附属看護実践研究指導センター 外部資金等講座

黒田 久美子……………●

一目置かれる存在＝千葉大らしさを発信していく時期です！

今村 恵美子……………●

常に応用の幅を広げ奥行を深め看護学を発展させてきた千葉大看護の伝統をこれからも共に未来へ繋いで行きましょう！

銭 淑君……………●

先人から看護遺産を継承し、今後どんな道をひらくかを熟慮し、進んでいく！

赤沼 智子……………●

四季おりおりの顔を見せてくれる亥鼻キャンパスで働けることが、何より、気に入っています。

山田 響子……………●

創立40周年おめでとうございます。
高い志を持たれ、常に医療・看護の最先端を切り拓いていらっしゃる先生方、学生の皆様とこの記念すべき年を一緒にできて光栄です。益々のご発展をお祈り致します。

藤沼 康樹……………●

日本の看護に最も影響力のある看護学部は、医師として微力ながら貢献できることを、大変嬉しく思っています。

宮古 紀宏……………●

国立大学で唯一の歴史ある看護学部で勤務できたことを誇りに思います。卒業生、在校生の方々の益々のご活躍をお祈りしております。

長坂 育代……………●

40年という歴史の中で培われた目に見えないけれど確かな看護のマインドが、千葉大学看護学部を卒業された方々に脈々と受け継がれているのを感じます。それが“千葉大だから学べること”だと思います。

高橋 在也……………●

ケアの営みが、社会の中で／生活の中で、狭義のケア労働者やケア提供者をこえて、人々にどのように定着し直されるかは、未来にむけての大きな課題に思えます。看護学が、その専門性と領域横断性を深化していくための時代の契機が来ていると思います。

鈴木 友子……………●

看護実践研究指導センターでFDを担当しています。本センターが教育研究共同利用拠点として看護学教育に貢献できるよう尽力してまいります。

阿部 恭子……………●

1年毎の積み重ねが30年、40年となって、多数の卒業生・修了生が巣立ちました。次の10年に向けて、卒業生・修了生の皆様が、本看護学研究科の発展を支えてくださることを期待します。

井関 千裕……………●

千葉大学看護学部40周年の歴史の重みを感じます。輝かしいご発展を遂げられた先生方の情熱に敬意を表します。今後も日本国内だけでなく、国際的な看護の伸長の拠点として発展されることを期待しております。次なる10年が楽しみです。

元教員からの メッセージ

これまで、看護学部／看護学研究科をささえてくださった先生方からも、ひとことメッセージをいただきましたので、ご紹介します。
お名前の50音順で掲載させていただきます。

40周年、早いですね。おめでとうございます。ますますのご発展をお祈りいたしております。

井上万寿江

40周年おめでとうございます。これからもますます人々の健康と幸福への看護の役割を推進していきましょう。

内田 雅代

40周年おめでとうございます。看護学部の益々の発展と、皆様のご活躍を心より祈念しております。

数間 恵子

40周年おめでとうございます。40年の輝かしい歴史は皆様のフロントランナーとしての意気込みと努力の賜物と、大変誇らしく、喜ばしく思います。ますますのご発展、ご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

小島 操子

おめでとうございます。

小島 通代

この日を元同僚の方々や次世代（もしかすると）次々世代の方々とお祝いできることをうれしく思います。

中島紀恵子

千葉の方角には足を向けて寝られない気持ちは今も変わりません。感謝の一言です。

永野みどり

後期高齢者も半ばとなり、明日が読めなくなりました。二本足で歩けるうちに、かつての思い出を求めて旅をしています。

野尻 雅美

益々のご発展を祈っています。

橋爪 壯

40周年おめでとうございます。開学の時期に教員生活を始めた者として、とても感慨深いものが 있습니다。千葉大学の卒業生の皆様のご活躍はすばらしく、いつも大変頼もしく感じています。今後もさらに看護学の発展のために尽力されることを期待しています。

濱中 喜代

基本的人権を重視した看護学の教育・研究を発達させてください。

山岸 春江

伊豆と浜松、170kmを行ったり来たりして楽しくやっています。会の成功を祈ります。

山田 重行

卒業生・大学院生・学部生からの メッセージ

卒業生、大学院生、学部生の皆様から、看護学部創立40周年facebookや同窓会より、メール等で、在学中の懐かしい思い出や、卒業後の活躍や日常生活、今まさに大学／大学院生活に奮闘している様子、在校生に向けたメッセージなど、たくさんのメッセージを頂戴しました。

卒業生からのメッセージ

1 期

40周年おめでとうございます。30周年記念時には、大学院在学中だったことを思い出します。久しぶりに母校に戻り、図書館でナイチンゲールの解説付きの訳本を読んだときには、思わず涙が出てしまいました。あれから10年経ちいろいろと立場は変わりましたが、ケアを必要としている人たちの存在が私たちを呼んでいるのだと改めて感じる今日この頃です。当時で指導いただいた先生方には、大変お世話になり、ほんとうにありがとうございました。今は、娘の年齢より若い学生を相手に、日々四苦八苦、精進の毎日です。●

3 期

「湯・湯呑み・茶葉、全く同じ条件で入れたお茶でも同じ味にならない。なぜか。」38年経つのにはまだ解けていない基礎看護の授業の中の薄井坦子先生からの発問である。人間がすることだから毎回同じにはできないじゃないか、呈茶する場合相手との関係性も味に影響するのではないかと時々考えるのだが、時間が経てば経つほど人には聞けずいまだに引きずっている。私にとっていつも禅問答のような授業でした。また、卒論は野口先生の講座で、不出来な私は、当時助手の坂根先生の下宿で夕食も作っていただき、卒論の追い込み作業をしました。室内には寒さに弱いセントポーリアが大切に育てられ清楚な花が咲いていたと記憶しています。発ちあがったばかりの学部で、どの先生からも看護や看護の枠にとらわれない将来について情熱をもって語られ、私たちへの期待が感じられた4年間であり、千葉大学看護学部生としてのプライドを育てられた4年間でした。●

3 期

同窓生に支えられて看護学教育で働き続けることができました。今の大学で同様に同窓生が支え合うような風土を育てたいと思っています。●

6 期

学生の頃は、教員になんてなろうとは全く思っていませんでした。働き始めて数年たった頃は、30歳位には専業主婦でいいなくらいに思っていました。今の姿と大きく違います。本当に将来はわからないものです。●

10期

大学院留学をきっかけに米国の大学で教育と研究に携わるようになって早くも10年近くが経とうとしています。現在緩和ケアの普及と特に高齢者を対象にしたアドバンスケアプランニングの研究に取り組んでいますが、数年前千葉大での特任教授をお引き受けした際に同期の友人が日本での同様の研究に取り組んでいることを知りました。それ以来スカイプなどで連絡を取りながら情報交換、研究協力をしています。卒業後20年以上経ってから大学の同期と一緒に研究をすることになるとは思っていませんでしたが、話をしているとつい学生時代の気分に帰って色々と熱い思いを語ってしまいます。看護の基礎を一緒に学んだ友人と現在の看護や医療の問題について話し合えることは、ちょっと不思議で貴重な体験になっています。●

10期

自分の体調、経済面、家庭や仕事との調整などに時間がかかり、今頃になって博士後期課程で勉強中です。遅咲きの仲間?の皆さん（いらっしゃいますよね?）体力の低下や物忘れと戦いながら頑張ります。●

12期

千葉大学看護学部を卒業して24年がたちました。卒業してからずっと看護に関わる仕事をしてきましたが、「千葉大学看護学部を選んでよかった」と思える場面がこれまで何回もありました。学問としての看護学の教育レベルの高さはもとより、看護を実践する者が持つべき人間性の素晴らしさを兼ね備えた仲間が、千葉大学には大勢いると実感しています。これからも末永く、千葉大学看護学部を応援していきたいと思います。●

12期

学部時代は西千葉のサークルに所属し、もっぱら西千葉での生活を中心にしていた授業や実習の時以外はほとんど亥鼻に寄りつかなかった私が、卒業してからふと気がついてみたら、20年以上も亥鼻で働き続けていました。卒業して25年、亥鼻キャンパスの風景は様変わりし、医療技術はより高度になっていても、看護学部で学んだ看護の本質は、今も昔も様変わりすることなく私の看護師人生の中で生き続けています。●

14期

看護学部あるあるといえば、やっぱり、sternocleidomastoideus ですね！
Os frontale! ●

17期

千葉大学看護学部で学問と実践を学べたことは私の人生の誇りであり、看護実践と教えられたことを高めて後輩に伝えられたらと思い、看護教員をしております。ですが、現実には厳しく、不完全燃焼感を持ちながら生きる毎日です。そんな中で、千葉大学で学んだことの誇りと自分の中のともしびを自らが吹き消さないように、ほそぼそと、地方大学で地域での看護

に貢献しながら生きていければと思っています。家庭や子育てとの両立等、課題山積ですが、どここの道へ進もうとも誇りを捨てずにこれからも歩んでいきたいと思っています。また、よき同期と恵まれ、今でも苦しいとき等に助言しあったり、慰めあったりしております。根っこが同じ同期生をこれからも大切にしていこうと思う所存です。●

18期

看護学部創立40周年おめでとうございます。18期生として学部と同じほどの月日を歩んできたのだと身が引き締まる思いがします。私は長年、医学・医薬雑誌の編集に当たり、現在はマクロミルケアネットで医療関係の市場調査を行っています。大半の調査は医師や患者が対象で、一部が薬剤師という状況ですが、今後、看護に携わる方々の意見がより重視されていくものと思います。いつも刺激を下さる同窓生の皆様、これからもどうぞよろしくお願い致します。●

19期

看護学部卒業後、5年間日本で助産師として働いておりました。病院だけでなく、もっと幅広い視野で公衆衛生を学び、途上国で母子保健に貢献したいと思い、米国で公衆衛生修士号を取得しました。2003年より研究員としてアフリカのコンゴ民主共和国に派遣され、2006年にはユニセフのキンシャサ事務所に入職しました。2008年にはコンゴ東部のゴマ事務所で働き、その後3年間のニューヨーク本部を経て、2012年よりユニセフのニカラグア事務所の副事務所長として働いています。看護学部で学んだこと、恩師や同級生との出会い、助産師経験を糧とし、これからも最も脆弱な子供の人権を守る、というユニセフのミッションをサポートしていきたいと思っています。●

21期

看護学部創立40周年、おめでとうございます。今は2人の娘の子育てに専念していますが、今後は自分の経験を生かし、助産師として、世の中の女性の支援ができれば、と思います。又、同窓会にも顔を出したいです。●

21期

20年前……子ども嫌い、落ちこぼれ学生。現在……3人の息子がおり、パートで訪問看護師。20年後……学部と同級生の私、還暦。まだまだ現役（のはず）。看護学部のますますのご発展をお祈りいたします！●

21期

埼玉県立大学で教員をしています。様々な機会と同窓生に出会うとホッとします。●



看護学部唯一の公認サークル舞部

22期

40周年、おめでとうございます。追試の常習犯だった私が、先生方に頂いたものは数知れず、感謝してもしきれません。中でも、千葉大に入らなければ触れることができなかったと思うことは、科学的看護論に導かれた物の見方です。基礎実習初日はうつろな目をした40代男性の白血病の方が、最終日にイキイキと整髪している姿を見て嬉しかったことは私の看護師としての出発点です。現在は、我が子の持てる力を見つけられるよう奮闘中です。千葉大学がますます発展することを願っております。●

23期

千葉大学看護学部創立40周年心よりお喜び申し上げます。改めて、千葉大学看護学部の存在や役割が大きいことを実感しております。看護に携わることができ、とてもよかったな—とっております。●

25期

現在、病院に勤務しながら他大学の大学院の修士課程に在籍しています。仕事と学業と育児に追われていますが、家族・職場の仲間・大学院の友人たちに支えられ、とても充実した日々を過ごしています。恵まれた環境に感謝し、微力ながら周産期医療に貢献できるよう、努力していきたいと思います。●

27期

看護学部創立40周年おめでとうございます。諸先輩方のこれまでのご功績に敬意を表します。今秋、看護学部のすぐ目の前に開設される産後ケアセンター“なのはなフィフティーン”の師長を拝命することになりました。産後、病産院から退院されたあとの心と身体を癒すための入所・通院型の施設です。「休んでいいんだよ」をモットーにやさしくてあたたかい場所になるよう頑張りますので、どうかみなさま、ご指導よろしくお願いいたします。●

29期

千葉大学看護学部の伝統に恥じぬよう精進していく所存です。●



懐かしい学位授与式（2012年度）



アラバマ大学の留学生と一緒に学びました（2013年）

32期

40周年おめでとうございます。卒業後から附属病院で働いています。先日部署を異動しましたが、異動先では千葉大看護学部卒の先輩が数多く活躍しておられ、とても心強く感じました。学生時代の同期は転職や進学、留学など、皆それぞれの道を歩んでおり、話を聞く度に私も成長しなければ、と思わせてくれます。向上心の高い方々が多く、千葉大看護学部の力を感じます。●

34期

卒業して早4年、1年強整形外科や透析で看護を経験し、採血もまともにできないまま看護師を離れ、今は子供の頃から大好きな無印良品で販売の仕事をしております。2月に入籍しまして、秋に結婚式を控え主婦も拙いながらやっています。たまに千葉に遊びに行ってますが、なかなか千葉駅の工事が終わりませんね！●

34期

創立40周年、おめでとうございます。大学院卒業後、現在私は東大病院の循環器内科で勤務しております。大学・大学院で学んだことを活かしつつ、日々楽しく過ごしています。大病院内で千葉大学看護学部卒の方に出会うことも多く、それぞれの人が非常に个性的で活躍していると感じます。千葉大学看護学部のネットワークの大きさに驚くばかりです。今後ますますのご発展を心よりお祈りしております。●

34期

40周年おめでとうございます。私は、学生時代に実習でお世話になりました千葉大病院の神経内科／呼吸器内科に勤務しています。学生の頃はぼんやりとしていた「看護とは」が、まだまだ不完全ではありますが、私なりにイメージできるようになり、より良い看護のために何が必要か日々思いを巡らせています。これからも、患者さんのために頑張っていきたいです。●

34期

40周年おめでとうございます。私は現在千葉大学附属病院ICU／CCUで働いています。ICU経験も4年目になり、徐々に急変が起きた時でも落ち着いて対応できるようになってきました。また千葉大では救急センター設立に向けて様々な取組、教育がなされています。日々忙しいですが、新しいことをおこなっていることにやりがいを感じています。●

35期

全くの異業種からのキャリアチェンジでした。社会経験がある故に様々な葛藤や悩みもありましたが、看護師として働く今、4年間看護学部で学んだことや考えたことは、とても貴重な経験だったと実感しています。●

35期

創立40周年おめでとうございます。私は、現在、千葉大学医学部附属病院の周産期母性科病棟で働いております。同期・先輩・後輩のつながりを強く感じながら、日々を過ごしています。大学という慣れた環境でキャリアアップを図るか、日々受ける刺激を胸に新たな職場で助産師としてキャリアアップを図るか、自身も悩む時期となってきました。学生の皆さんも自分の興味ある分野を見定めつつ、将来に向けて頑張ってください。●

37期

創立40周年おめでとうございます。千葉大学看護学部に入學し、看護師とは何か、医療の世界においてどのような役目を果たすべきなのか、座学や実習を通して多角的な視点から学べました。実習中に睡眠時間を削りながら患者さんのことを考え、記録を書いたのも今ではいい思い出です。ここで学べたことを患者さんに還元していけるよう、頑張りたいと思います。●

37期

千葉大学看護学部創立40周年おめでとうございます。私の亥鼻での思い出は、もう1人の看護男子と4年間一緒に看護を学んだことです。学年で2人しか男子学生がおらず入学当初は戸惑いましたが今となっては楽しい思い出です。在校生の皆さんは試験や実習に追われて大変な時期もあると思います。しかし、いま学んでおられることは間違いなく臨床で皆さんを助けてくれます。辛いこともあると思いますが、頑張ってください。●

37期

この春から、附属病院の手術部で働いています。学生時代にはほとんど学ぶ機会のなかった手術看護と向き合い、戸惑うことや落ち込むことも多いですが、部署の中で、学部の卒業生や大学院生の先輩方が、管理者や研究者など各々のキャリアを発展させている姿を見て、私も先輩方のようにになりたい！と日々奮闘しています。看護職者としてのキャリアはまだ始まったばかりですが、一步一步着実に成長していけるよう頑張りたいと思います。●



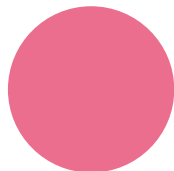
発見が多かった形態機能学実習



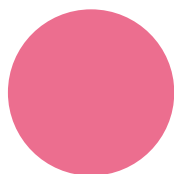
ドキドキの看護基本技術

大学院生からのメッセージ

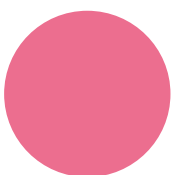
博士前期・修士課程



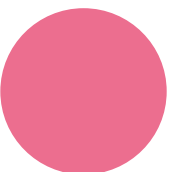
Congratulation on the 40th anniversary of School of Nursing. I got a lot of new knowledge and the academic atmosphere is very supportive. I want to continue to my research in doctoral course and to develop Nursing Pathobiology in Indonesia through the research. ●



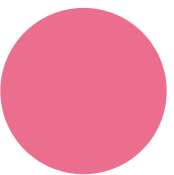
元々看護職志望ではなく、いろいろあって気付いたら千葉大看護に進学していた私は、学部生時代は不真面目なことこの上なく、教科書すら全部揃えていないという位でしたが、さらに気付いたら保健師の仕事にどっぷりハマリ、職歴は15年目、仕事をしつつ大学院まで通学という状況になりました。それもこれもすべて千葉大看護パワーのおかげだと感じています。基礎実習で泣いたあの頃が懐かしい今日この頃です。 ●



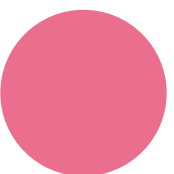
私は看護管理者として必要な能力をつけるために入学しました。実際に入学すると、管理に必要な知識を習得するだけでなく、自己を内省すること、問題解決能力の向上、新たな価値の創造といった入学前には想像しなかった管理者の価値や可能性を感じています。管理者として、働きながら今、必要とすることを学べる場がある事に感謝しています。 ●



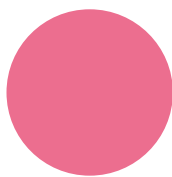
職員が満足できる、そして病院を利用される方々が満足できる病院であり続けるために、私も楽しく学んでいます。大学院での熱心で心強い先生方からの学びや、仲間との語り合いは、即実践の現場に役立つことばかりです。 ●



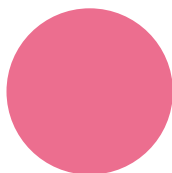
千葉大学看護学部40周年おめでとうございます。この看護学部を卒業して3年経ち、今は博士前期課程で学んでいます。卒業研究でもお世話になった小児看護学の先生方の元、奮闘しています。久しぶりに通う亥鼻キャンパス。いくつかの棟や施設は新しくなりつつも、先生方のあたたかさや情熱とともに、千葉大学看護学部のゆるがない歴史ある看護への信念はそのままのように感じました。これからも、ますますの発展を祈りつつ、自身もいただいた学びを少しでも社会へと還元できるよう、日々進んで行きたいです。 ●



現在、博士前期課程の1年目として学んでおります。千葉大学で看護についての学びを深められていることを誇りに思います。 ●

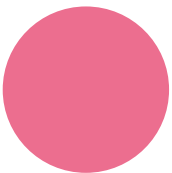


新たな目標に向かい、50歳からの挑戦を睡魔とたたかい楽しんでいます。●

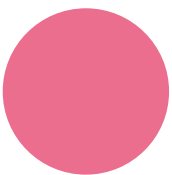


千葉大学大学院看護学研究科に入学を希望したのは、母性看護専門看護師になりたいと考えたからです。入学後、先生方の熱心なご指導の下で良き同級生にも恵まれ、日々、勉学に勤しんでいます。今後も大学院での学びを更に深め、修了後は臨床で多施設協働の研究を継続していきたいと考えています。●

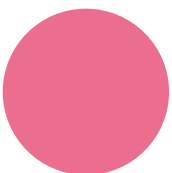
博士後期課程



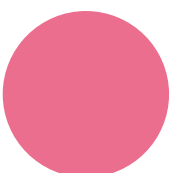
創立40周年おめでとうございます。私は博士後期課程から入学しました。看護学について探究する先生方や日々を共にする院生、授業や実習の補助を通じて出会った学部生の皆さんから学ぶことは多く、本研究科の一員として学べることに感謝しています。●



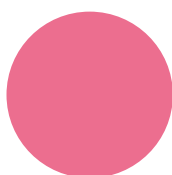
私たちの教室では、「結論から言うこと」「発言したら必ず着地すること」を意識して、思考と話術の瞬発力を鍛え、ダムに水をためるが如く知識を蓄え、現場の課題解決に向けて全力で放水できるよう日々邁進しています。●



私は中国からの留学生です。千葉大学看護学研究科博士前期課程を修了後、引き続き博士後期課程に進学して、日本で出産した中国人女性を対象にする研究に取り組んでいます。日本での学業を修了したら、帰国して、日本で身につけた知識とスキルを活かして、中国の看護学系大学に就職し、看護学教育に携わって、後輩指導に力を尽くして行きたいと思っています。●



未来の看護学の発展に、わずかばかりでも寄与することが出来るよう、多くの良い刺激を取り入れながら、研鑽を積んでいきたいと思います。●



My congratulations on celebrating 40th anniversary of Chiba University school of Nursing (CUSON). At CUSON, I'm learning strong fundamental of nursing knowledge that is important for my future career as a faculty member in School of Nursing UGM. After graduation, I hope I can give contribution to strengthen the collaboration between UGM and CUSON. My wishes for CUSON to continue success in the future and lead the students to think globally. ●

学部生からのメッセージ

看護学部 4 年

「こんなところにも支援に来てくれた」東日本大震災後に地元の避難所でボランティアをしていた高校生の私は、千葉大学看護学部の先生方に避難所でお会いし、看護の力を目の当たりにしたことがきっかけとなって、看護の道を志しました。在学中も仮設住宅などでボランティア活動を行ないました。視野の広い看護を目指し、将来は助産師として働きながら、入学のきっかけとなった災害支援で恩返ししたいと思っています。●

看護学部 4 年

私は現在、実習や就職活動に取り組み、忙しくも充実した毎日を送っています。今まで授業で習ったことを生かし、より良い看護を提供できるよう、試行錯誤しながら看護を实践する毎日はとても刺激的であり、楽しいです。男子学生は少ないですが、男子学生同士支えあって、とても楽しく学生生活を過ごしています。将来は男子学生だからこそできることはなにか？と強みを考え、日本の看護界が発展する際の重要な歯車となれるよう、学習を深めたいと考えています。●

看護学部 4 年

社会人入学から最終学年となり、現在はコア実習で分野ごとに実際の現場で学びを深めたり、卒業研究のための文献を読み進めたりする毎日を送っています。勉強に集中できる残り少ない学生生活を満喫したいです。●

看護学部 3 年

千葉大学看護学部に入学者して2年半経とうとしていますが、入学時以上にこの学校・学部が大好きで、大変な毎日の中でも充実した日々を過ごしています！●

看護学部 3 年

今はまだ未熟ですが、患者のニーズに合った看護ができる看護師になりたいです。●

看護学部 3 年

ステキな看護師になりたい!!●



東日本大震災の仮設住宅に皆で支援に行きました

看護学部 3年

看護学部創立40周年おめでとうございます。このようなおめでたい時期に千葉大学看護学部に所属していることは非常に光栄です。この学部で3年間学んできて、千葉大学看護学部の理論に基づく看護の魅力が分かってきました。充実した学びができることは千葉大学看護学部だからこそだと感じます。この学びが継続していけるよう、一層真剣に大学生活に取り組みたいと思います。●

看護学部 3年

千葉大学に入り3年、高校までの受け身の授業と違い、多くのグループワークや意見の発言などを取り入れた授業は、学んだことや自分の考えを整理し、様々な意見を聞くことができる反面、他人の前で話すということに全く慣れないです。それでも、千葉大学に入り、良かったと心から言えることが出来ることがうれしいです。●

看護学部 3年

私は現在、発達障害児に学習を教える塾の講師をしています。児とは言っても、幼稚園入学前から30代の方まで、生徒さんの年齢は幅広いです。自閉症スペクトラム、ADHD、LDなど様々な障害をもちつつ、子どもたちの得意なこと、できることを伸ばすお手伝いをしています。大学の授業で学んだことはここでも生かしており、一般的な障害や症状の知識をもちつつ、多様な症状に柔軟に対応しています。今後、この生徒たちが成人し、独立に向けて、看護師としてどのような援助ができるのか模索しながら、あと一年半の学生生活を過ごしていきたいと考えています。●

看護学部 3年

看護学部創立40周年おめでとうございます。看護学を学びたいと入学して3年、千葉大学で看護を学ぶことの意味と価値、そして看護学のフロンランナーとして活躍されている先生方から直接学ぶことができる恵まれた環境であることを日々感謝しながら学んでおります。看護の勉強は知りたいことや学びたいことが多く、どれだけ時間があっても足りないくらいです。先輩方が築いてこられた誇りある歴史を私たち世代が受け継ぎながら、先輩方に負けないようなナース・サイエンティストを目指して頑張りたいと思います。●

看護学部 2年

千葉大学看護学部創立40周年おめでとうございます。国立大学唯一の看護学部として伝統ある千葉大学看護学部で学べることは私の誇りです。この伝統を築いてきた諸先輩方に感謝をこめて、皆様のますますのご発展をお祈り申し上げます。●

看護学部 2 年

看護学部創立40周年おめでとうございます。このような機会に学生として在籍できること、各方面でご活躍の先輩方に恵まれましたこと、とても誇らしく、ありがたい気持ちです。看護学を学べる大学は増え、学校選びには様々な観点があると思いますが、私は①社会人入試を始めて4年以上たっていること ②看護職として多方面で活躍しているOB/OGが多いこと ③IPEなど他の職種との連携に関する取り組みがあること を踏まえここを選びました。入学してから1年半、希望している産業保健師として働いておられる先輩と出会うこともできましたし、日々の授業では先生方が誇りと熱意をもって取り組んでくださるので気が引きまる思いです。この記念すべき年を節目として、これまでの優れた実践を糧に、伝統を大事にしながらも、新しい時代の創造とご活躍、あわせて皆様のご健勝を心よりお祈り致します。●

看護学部 1 年

高校までの学びと大学での学びとの狭間でもがきながら日々を送っています。先日気付くと形態機能学Ⅰの試験概要の説明の際、真っ先に再試験の日程を手帳に書き込んでいる自分がいました……。ある先生が「千葉大看護学部には資源がたくさんある。主体的にそれを活用しない手はない。」と仰っていました。その資源の一つには長い歴史を誇るこの同窓会があると思います。この言葉を噛み締めつつこれからの学生生活を送っていきたいです。●

看護学部 1 年

創立40周年おめでとうございます。私は千葉大学に入学して日が浅いですが、授業をととして看護の素晴らしさや可能性について少しずつ学びを得るなかで、歴史ある大学で看護を修められる喜びを日々実感しております。今後も日本の看護界を牽引する存在として、ますますのご発展を祈念いたします。●



2010年から看護学部のロゴが入りました



ドキドキの看護基本技術



2

亥鼻キャンパスの今

看護学部創立30周年以降の主な亥鼻キャンパスの変化をご紹介します。

2014年、耐震補強をして看護学部管理棟が新しくなりました。3～5階にあった実習室は最新の教育設備を整え、名称がスタンダード・スキルズ・ラボ（3階）、エキスパート・スキルズ・ラボ（4階）、アセスメント・トレーニング・ラボ（5階）に生まれ変わりました。また、2015年4月には看護学研究科看護学専攻は3講座に改組されました。その他、この10年間に新たに開始された主なプロジェクトや教育プログラムをご紹介します。

なお、掲載しているデータ等は、千葉大学看護学研究科・看護学部の許可を得て使用しております。

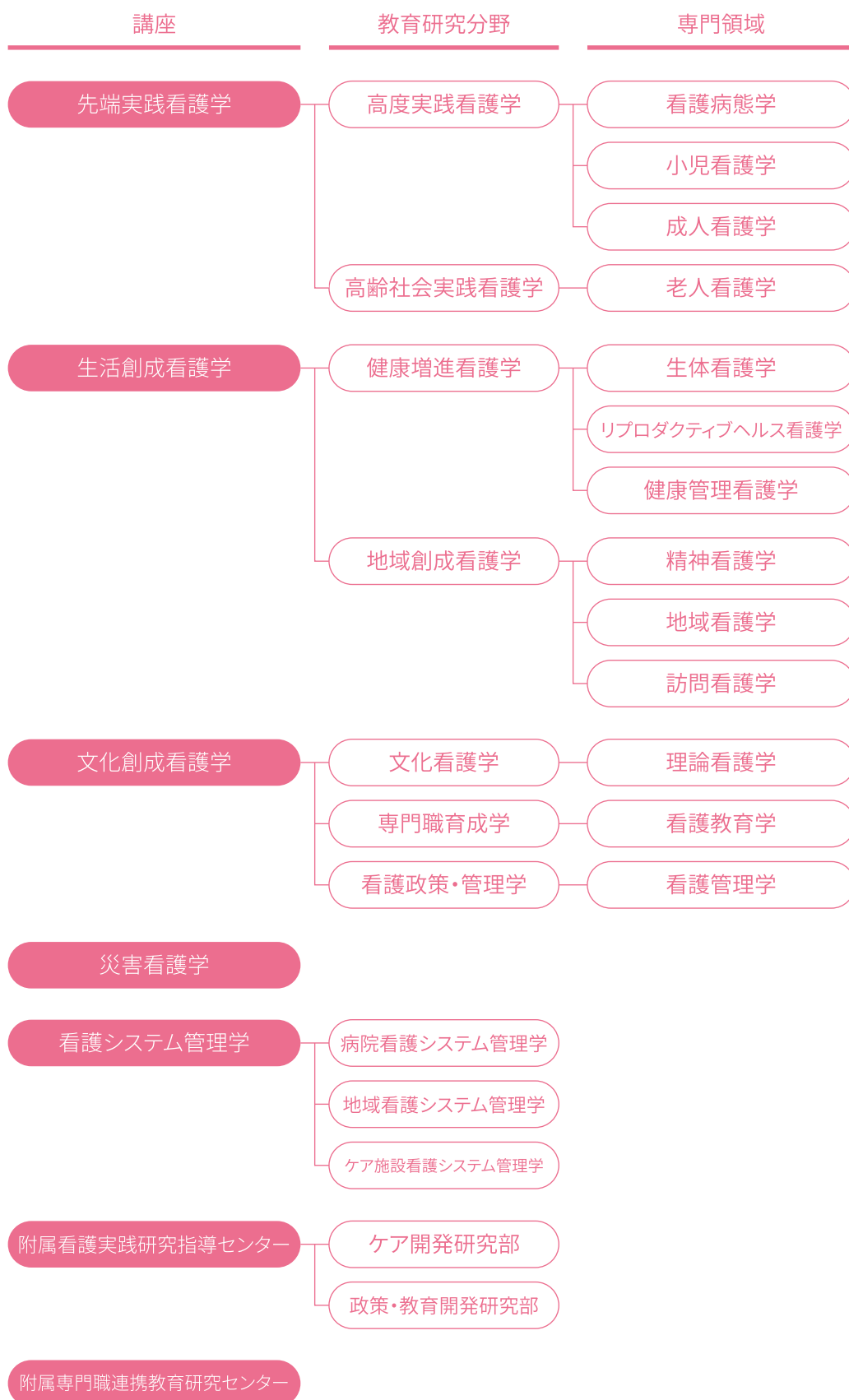
看護学研究科・看護学部の 沿革

昭和49年 4月11日	千葉大学看護学部創設準備室が置かれた。
昭和50年 4月22日	看護学部（看護学科、2講座（機能・代謝学講座、基礎看護学講座）、入学定員60名）が設置された。看護学部看護学科が看護婦養成所学校として指定された。
昭和51年 4月1日	4講座（病態学講座、基礎保健学講座、社会保健学講座、成人看護学第一講座）が増設された。
昭和51年 8月21日	看護学部校舎（現看護学部管理棟）が落成した。
昭和52年 4月1日	3講座（成人看護学第二講座、精神看護学講座及び小児看護学講座）が増設された。
昭和53年 4月1日	看護学部看護学科が保健婦及び助産婦学校養成所として指定された。母性看護学講座が増設された。
昭和54年 3月23日	第1回卒業生52名を衛生看護学士として送り出した。
昭和54年 4月1日	千葉大学大学院看護学研究科修士課程（看護学専攻、入学定員15名）が設置された。看護学部3年次編入学（入学定員10名）を開始した。看護教育学講座が増設された。
昭和56年 3月23日	第3回卒業生から学士号の名称が看護学士と改称された。
昭和56年 3月25日	第1回の看護学研究科修士課程修了生13名を看護学修士として送り出した。
昭和56年10月15日	亥鼻地区合同校舎の改修が竣工した。
昭和57年 4月1日	看護学部の入学定員が80名に改定された。全国共同利用施設として附属看護実践研究指導センターが設置された。社会保健学講座が地域看護学講座に改称された。
昭和63年 4月1日	看護学部看護学科の入学定員が臨時増募により85名に改定された。
平成4年 4月1日	寄附講座として家族看護学（千葉銀行）講座が開設された。（平成9年3月31日まで）
平成5年 4月1日	大学院看護学研究科が改組され博士課程（博士前期課程：入学定員25名、博士後期課程：入学定員9名）が設置された。看護学部看護学科が11講座から4大講座（基礎看護学講座、母子看護学講座、成人・老人看護学講座、地域看護学講座）に改組された。博士前期課程において大学院設置基準第14条が適用された。
平成6年 4月1日	看護学部看護学科において社会人特別選抜制度が導入された。
平成8年 3月25日	第1回の看護学研究科博士後期課程修了生8名を博士（看護学）として送り出した。
平成10年 4月1日	看護学部看護学科の入学定員が臨時増募定員の解消により80名に改定された。
平成12年 4月1日	地域看護学講座に訪問看護学教育研究分野が増設された。
平成13年 2月10日	看護学研究科博士前期課程に2分野（がん看護分野、老人看護分野）の専門看護師教育課程が認定された。
平成14年 4月1日	看護学研究科修士課程（看護システム管理学専攻（独立専攻、入学定員6名））が設置された。 看護学部看護学科において推薦入学制度が導入された。

平成14年 5月10日	大学院看護学研究科修士課程看護システム管理学専攻入学式が挙行された。
平成16年 2月14日	大学院看護学研究科博士前期課程の主専攻母性看護学が母性看護分野の専門看護師教育課程として認定された。
平成17年 1月19日	看護学研究科附属看護実践研究指導センターが乳がん認定看護師教育課程として認定された。
平成17年 3月 7日	大学院看護学研究科博士前期課程の主専攻小児看護学が小児看護分野の専門看護師教育課程として認定された。
平成17年 3月25日	千葉大学大学院学位記授与式が挙行され、第1回の看護学研究科修士課程看護システム管理学専攻修了生8名を修士（看護学）として送り出した。
平成19年 4月 1日	大学院看護学研究科修士課程看護システム管理学専攻にケア施設看護システム管理学領域が増設され、定員が3名増の9名となった。また博士後期課程看護学専攻に看護病態学と看護管理学の領域が増設され、定員が3名増の12名となった。
平成22年 2月12日	大学院看護学研究科博士前期課程の主専攻精神看護学が精神看護分野の専門看護師教育課程として認定された。
平成22年 3月	看護学研究科附属看護実践研究指導センターが看護学教育研究共同利用拠点として文部科学省に認定された。
平成24年 4月 1日	大学院看護学研究科修士課程看護システム管理学専攻に2領域（実践看護評価学、継続教育・政策看護学）が増設され、定員が3名増の12名となった。
平成26年 4月 1日	大学院看護学研究科5年一貫制博士課程（共同災害看護学専攻、入学定員2名）が設置された。
平成27年 1月 1日	看護学研究科附属専門職連携教育研究センターが設置された。
平成27年 4月 1日	看護学研究科看護学専攻は、4講座12教育研究分野から、3講座7教育研究分野に改組された。



組織図



看護学研究科・看護学部

教員一覧

平成27年4月1日現在

専攻	講座	教育研究分野	専門領域	教 授	准教授	講 師	助教・助手
看護学	先端実践看護学	高度実践看護学	看護病態学	岡田 忍		小川 俊子	
			小児看護学	中村 伸枝	佐藤 奈保		仲井 あや 金丸 友
			成人看護学	眞嶋 朋子	増島麻里子		渡邊 美和 楠 潤子
		高齢社会 実践看護学	老人看護学	正木 治恵	石橋みゆき		高橋 良幸 戸田由利亜
	生活創成看護学	健康増進看護学	生体看護学	小宮山政敏	田中 裕二		藤田 水穂
			リプロダクティブヘルス 看護学	森 恵美	坂上 明子		小澤 治美 青木 恭子 小坂 麻衣
			健康管理看護学	北池 正	池崎 澄江		
		地域創成看護学	精神看護学			野崎 章子	舘 祥平
			地域看護学	宮崎美砂子	石丸 美奈		飯野 理恵 時田 礼子
			訪問看護学	諏訪さゆり	辻村真由子		能川 琴子
	文化創成看護学	文化看護学	理論看護学	山本 利江		永田亜希子	阿部由喜湖
		専門職育成学	看護教育学	舟島なをみ	中山登志子		
		看護政策・管理学	看護管理学	(吉本 照子)			
				(酒井 郁子)			
共同災害看護学	災害看護学	災害看護学	岩崎 弥生 (特任) 神藤 猛	(特任) 伊藤 尚子 (特任) 望月 由紀		(特任) 臼井いづみ	
看護システム管理学	看護システム管理学	病院看護システム管理学		手島 恵		飯田貴映子	
		地域看護システム管理学		吉本 照子	杉田由加里		
		ケア施設看護システム管理学		酒井 郁子			黒河内仙奈
附属看護実践研究指導センター	ケア開発研究部		野地 有子	黒田久美子	赤沼 智子		
	政策・教育開発研究部		和住 淑子	錢 淑君	今村恵美子		
附属専門職連携教育研究センター				(特任) 大塚真理子		(特任) 宮古 紀宏 (特任) 藤沼 康樹	(特任) 山田 響子
外部資金等講座				特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン					長坂 育代		
エンドオブライフケア看護学（日本財団）				長江 弘子			高橋 在也
認定看護師教育課程（乳がん看護分野）					阿部 恭子		井関 千裕
FDマザーマップ開発							鈴木 友子
文化看護国際共同研究センター					(望月 由紀)		

看護学研究科・看護学部における この10年間の新たな取り組み

文化看護国際共同研究センター
推進室長

正木 治恵……………文化看護国際共同研究センター

文化看護国際共同研究センター（Asian Research and Collaboration Center for Nursing and Cultural Studies：通称ARC センター）は、平成15～19年度「21世紀COEプログラム 日本文化型看護学の創出・国際発信拠点」の成果を引き継ぎ、日本国内はもとより国際的な看護学研究の拠点になることを目指し、平成23年度に看護学研究科内に設置した。本センター設置の目的は、質の高いヘルスケアの発展・展開を促進させるために、文化看護学の国際的・学際的な研究の場を提供することであり、活動内容は、A) 研究、B) 教育・人材育成、C) 学際的研究ネットワークの構築、D) 英文ジャーナルの発行であった。本センターの名称は、当時客員教授であったP. Bomar先生との協議で決まった。現在は、“Nursing & Human Science”（毎年1号）の発行を主な活動としている。

本センター設置を計画していた頃、我が国の看護学の研究論文は、和文の論文数は増加しているものの、英文雑誌をみると、ごく限られた研究者の論文しか投稿されていなかった。我が国の看護学研究が進歩・発展していることについて、諸外国からはその実情をみることはできないという現状は残念であった。特に21世紀COEプログラムの成果を含め、本研究科での研究成果は海外に発信すべき内容であり、是非とも発信したいという想いが募っていた。当時、日本国内で看護系の英文雑誌を刊行していたのは二学会のみであり、一大学から創刊したという点で経緯が似ていた英文雑誌も含まれていた。その創刊に携わった元山口大学の教員を招き、創刊当時の準備や経緯について苦労話を含め教示頂いた。英文ジャーナル創刊において一番の難関は経費の継続的確保であったが、出版社との協議によって、既に刊行されていた“International Journal of Nursing Practice”の増刊号（Supplement）とすることで発刊が可能となった。計画当時は不可能と思えた英文ジャーナルの創刊であったが、現在までに4号継続して発刊している。●



眞嶋 朋子…………… がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

文部科学省の事業である「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」は、日本におけるがん医療の均てん化等をめざし、高度ながん医療やがん研究等を実践できる優れたがん専門医療人の養成を目的としたプロジェクトです。第1期は平成19年度よりスタートし、平成24年度は第2期目に入りました。第1期目は田崎牧子特任講師、第2期目は長坂育代特任准教授が中心となって推進してくださり、現在、千葉大学は、筑波大学をはじめとした7大学と共同で①医歯薬看護分野横断的研究、②放射線・粒子線医療人養成、③がんプロ全国e-learningクラウドを活用した大学院教育を柱としたプロジェクトを展開しています。

このプロジェクトの中に、高度な実践能力と国際感覚に富んだがん看護専門看護師を育成する「高度実践看護学（がん看護学）コース」があります。本学看護学研究科はその中心的な役割を担い、筑波大学、群馬大学、埼玉医科大学と連携し、国や大学の枠を超えた高度実践看護師や大学院生間の交流を推進しています。また、専門看護師教育の38単位化に伴い、効果的かつ効率的な教育を提供するためにe-learningを活用した大学院教育の検討とe-learningコンテンツの充実を図っています。

加えて、地域における緩和ケアの質向上を目的に、がん緩和ケアに携わる医療専門職者が複数職種のチームで参加する短期の研修「がん緩和ケア多職種養成コース」を毎年開講し、チームアプローチを推進する人材の育成にも努めています。千葉大学では、看護学研究科と医学部附属病院の緩和ケア支援チームが連携し、3年間で主に千葉県下における33施設11職種のべ167名の方がコースを受講しました。

第1期がんプロ以降、千葉大学では32名ががん看護専門看護師の大学院コースを修了、19名が資格を取得し全国で活躍しています。しかし、専門看護師の数や専門看護師教育課程校が年々増加するなかで指導者の数は十分とは言えません。今後は、千葉大学で先駆的に取り組んでいる専門看護師強化コースと連携し、がん看護専門看護師の指導者養成もすすめていきたいと考えています。●

エンド・オブ・ライフケア看護学
(日本財団助成事業) 特任教授

長江 弘子…………… エンド・オブ・ライフケア看護学

千葉大学大学院看護学研究科エンド・オブ・ライフケア看護学は、2011年度から、日本財団の助成によって5カ年計画で設置されました。「領域横断的エンド・オブ・ライフケア看護学（EOL看護学）」はがん、慢性疾患や難病の終末像等の多様な臨床現場における生と死について考え、子どもから高齢者に至るあらゆる発達段階にある人の人生の終末期・晩年期を包括的にとらえた看護のあり方を追求していく新たな学問領域です。大学教育では、普遍教育および看護学教育課程（学部及び大学院教育）において生と死について深く学び、死生観を身につけた看護職者及び市民の育成を目指しました。また、大学教育のみならず継続教育としても様々な臨床現場で働く看護職や地域における専門職へ新しい知識・技術を普及してきました。さらに地域の千葉市地域包括支援センターや千葉市生涯学習センターと協働して、保健医療福祉専門職や市民に向けたEOLファシリテーター育成プログラムの開発・実践を行ってきました。とりわけ私たちが大切にしていることは、専門職と市民の方々が共に自分のエンド・オブ・ライフや死生観について考え、話しあう市民講座プログラムの開発・実践です。これは、日々の暮らしの中で、EOLを語り合う文化を創出する試みとして、プログラムの企画段階から市民の方々と協同でつくりあげてきました。そしてこうした先駆的な実践を国内外の学会で発表を行いつつ、書籍・専門雑誌による発信も行ってきました。5年という限られた期間ではありましたが大学教育・専門職支援・市民講座といった多様な層にエンド・オブ・ライフについての知識の発信と教育的試みを試行しながら、現在、EOL看護学の理論的確立を目指しています。2015年度千葉大学におけるEOL看護学の現体制は、終了になりますが、引き続き領域横断的試みが、研究・教育・実践と連動し発展することを願っています。●



市民講座「みんなで語り合おう！自分らしい生き方・死に方～豊かなエンド・オブ・ライフを過ごすためのワークショップ～」の様子

岩崎 弥生…………… 大学院看護学研究科国際プログラム

(Graduate School of Nursing International Program for Nursing Science)

看護学研究科において国際プログラムの案が浮上したのは2009年3月のことであるが、本格的な検討が始まったのは2010年4月に入ってからであり、以降2011年11月ホームページに募集要項をアップするまでに3年半かかっている。

留学生受け入れまでの準備期間は、大きくは二段階に分けることができる。第一段階（2010年4月～2010年12月）では、募集要項（出願資格、出願期間、出願手続、選抜方法、応募書類等を含む）、カリキュラム、シラバス、履修案内を作成し、教授会の承認を得た。第二段階（2011年4月～2012年3月）では、2012年10月からの入学者受け入れを目指し、①募集要項、応募書類、時間割、履修案内等の英文書類のチェック、②選抜方法（推薦書、学習・キャリア目標、プロポーザル、GPA、TOEFL、TV会議による面接試験）、合否判定、合格通知、合否判定の送付方法、③プログラム概要および募集要項ホームページへの掲載、④合格者への奨学金、住居、在留資格認定証明書申請、入学手続等々に関する情報の提供、⑤留学生へのサポートについて検討した。

国際プログラム博士前期課程に第一期生が入学したのは2012年10月のことである。以降、若干名ではあるが、インドネシア、ネパールから学生を迎えている。また、2014年10月には博士後期課程も開設された。国際プログラムの学生は、知的好奇心に富み、日本人学生にもよい刺激を与えており、プログラムの継続を期待する。そのためには質の高い教育を保証し、奨学金が確保できるよう支援する必要がある、看護学の授業を担当できる外国人教員の雇用や、奨学金確保の条件ともなる国際会議での論文発表の促進が課題となる。

国際プログラムの準備では、ワーキングのメンバー（第一期：緒方泰子、野地有子、増島麻里子、森恵美；第二期：緒方泰子、手島恵、増島麻里子、山田重行、山本利江 [いずれも五十音順、敬称略]）、大学院学務係（寄主氏、川名氏）、入試課、学生部留学生課、国際教育センター、園芸学研究科等々、数々の部署・担当者にお世話になった。ここに改めてお礼申し上げる。●



写真右端：Dr. Mary Grace Umlauf客員教授（国際プログラム開設当初・授業の一部を担当）

左から2人目：国際プログラム留学生第1号（インドネシアから）

望月 由紀…………… 災害看護グローバルリーダー養成プログラム (Disaster Nursing Global Leader Degree Program : DNGL)

日本における災害看護教育は平成7年に発生した阪神淡路大震災を契機に始まったまだ歴史の浅い領域ですが、多発化する自然災害だけでなく感染症の流行やテロなどの人為的災害時においても、率先してリーダーシップを発揮できる看護職が求められています。本プログラムは、平成23年度より文部科学省において採択された博士課程リーディングプログラムの中の一つであり、5年一貫した博士課程教育を行うことで、広く産官学にわたって国際社会で活躍し世界を牽引する災害看護グローバルリーダーを養成し、世界的な大学院教育拠点の形成を推進することを目的としています。平成26年4月からは5年一貫博士課程「共同災害看護学専攻」が千葉大学、高知県立大学、兵庫県立大学、東京医科歯科大学、日本赤十字看護大学の5大学共同にて開設されました。これは国内初の「国公私立共同大学院」です。学生は主指導教員が在席する大学に学籍を置きますが、専用回線を有するテレビ会議システムやオンラインでの学習管理システム（Learning Management System : LMS）、遠隔地をつないだシミュレーション・システムなどを利用して、構成大学が開講する全ての授業を本籍大学で受講することができます。こうした新しい講義システムに学生たちは当初戸惑ったようですが、集合研修授業や国内外の災害学会等での分科会の合同企画などを通して他大学の学生とも交流を深め、連帯を強めています。教員側もディスプレイ越しの授業に不安がありましたが、むしろお互いの顔が大きくはつきり見える状況なので、講義方法よりも、セメスターが始まる前に講義内容と課題をすべてLMSにアップロードしておいたり、ホワイトボード機能を利用する場合には事前に予約しておく等の授業構築に戸惑いがありました。しかしどこからでも講義に参加できる本授業システムは大きな可能性を秘めています。また本プログラムの構成大学が各々有する国内外の人的・組織的ネットワークを共有することで、より幅広いフィールドでの教育やインターンシップが実現可能です。千葉大学では災害復興プロセスの中でも特に中長期支援を中心に、多機関と連携協働しながら地域再生を促す研究・実践能力の養成に力を注いでいます。現時点で本専攻はまだ修了者を輩出していませんが、修了後は看護領域にとどまらず、本専攻で学んだ幅広い知識とネットワークを活かして、WHOや国際連合等のグローバルな国際機関はもとより、日本各地の自治体や災害拠点病院等のグローバルな現場でも活躍できる人になれるよう、研鑽を積んでくれることを願っています。●



テレビ会議システムを用いて5大学の学生と一緒に学んでいます

附属専門職連携教育研究センター
センター長

酒井 郁子…………… 附属専門職連携教育研究センター

2005年よりイギリスへの視察など準備を開始し、2007年から、医学部、看護学部、薬学部の3学部必修での、専門職連携教育プログラムをスタートさせました。このプログラムは世界でも先進的な教育プログラムとして注目を浴びてきました。そして成果を評価し、授業内容を洗練させることにより、継続的に教育の質を向上させてきました。

そして2015年1月1日には、次世代対応型医療人育成と「治療学」拠点創成のための亥鼻キャンパス高機能化構想の一環として、医療系専門職の連携教育研究・連携実践を強力に推進するために、看護学研究科に附属専門職連携教育研究センター（Interprofessional Education Research Center：IPERC）が設置されました。これは医学部、看護学部、薬学部の教員および特任教員から構成され亥鼻キャンパス全体にわたる組織です。そして専門職連携学の構築を行うことで、研究教育実践の拠点として日本の保健医療福祉及び高等教育に対して貢献していくことが期待されています。

IPERCは、これまで助成金及び補助金を確実に獲得し大学のサポートを受けてきた亥鼻IPEという先進的な教育プログラムを展開した実績の上に成り立っています。IPERCのミッションは、①次世代型人材の育成、②専門職連携を促進するための資源開発、③IPE/IPWの理論化・体系化・実証の組織的展開による継続的なイノベーションと拠点形成です。

「看護学部創立40周年に、IPERCが開設されたことは亥鼻キャンパスの一つのターニングポイントであった」と、後に評価されるように、チャレンジを継続していければ、と考えています。

千葉大学は総合大学であり、国立大学唯一看護学部を有する大学です。看護学部/看護学研究科が、千葉大学に何らかの貢献することなしに、社会への貢献はありません。いずれは、専門職連携の大きな動きを千葉大学そして千葉県、国内外へ広げていきたいと考えています。●

看護学部・医学部・薬学部合同で行っている専門職連携教育（IPE）
写真はStep4（看護学部4年次生・医学部/薬学部6年次生）の様子



模擬患者さんと退院計画についての話し合い



退院支援計画に関する3学部での討論

中村 伸枝…………… 組織再編 ～変えるものと変えないもの～

千葉大学看護学部・大学院看護学研究科の組織は、1975年の創設当時から社会のニーズを受けて少しずつ変化してきた。1979年にわが国初の看護学の学位を授与する課程として看護学研究科修士課程、1993年には看護学研究科博士課程、2002年には現職の看護管理者を対象に看護システム管理学専攻が設置されている。それでも、教育研究を行う単位としての教育研究分野／研究部自体が再編されることはなく40年あまりが経過した。創設当時から現在に至るまで各教育研究分野等は、学生の学習が深まるより良い教育や、より質の高い看護につながる研究を試行錯誤し、経験を積みながら築いてきた。このことは、大学・大学院に求められる様々な課題解決の際に底力を発揮し、必ずしも準備が十分とはいえないときでも、実際の場面ではうまく乗り越えることにつながっていたと考える。また、比較的安定した組織が続いたことや、一貫した人材育成像をもっていたことは、千葉大学看護学部・看護学研究科としての気質や校風を築いてきた。

近年、大学を取り巻く社会状況や大学に求められることが大きく変化している。医療・看護分野においても、急速な少子高齢化、人口減少、疾患構造の変化、医療・福祉制度の変化、医療技術の進歩、専門職教育や人材育成の変化など大きな変化がダイナミックに生じている。このような背景のなかで、文部科学省は2013年度には国立大学にミッションの再定義を行い、2015年4月には大学運営における学長のリーダーシップの確立等のガバナンス改革を促進するための学校教育法及び国立大学法人法の一部改正が施行される。これらの改革におけるキーワードは、グローバルな視点と国際化、国際水準の研究であり、年俸制の導入など雇用のあり方についても変化を求めている。

これまで教員削減が進むなかでも、教員個人の努力や各教育研究分野等のなかで調整を行うことなどにより、丁寧な教育を継続し学部教育について高い評価を得たり、大型の競争的資金を得たプロジェクトへの取組みや、高い科学研究費補助金の採択率を維持してきた本研究科においても、各教育研究分野等の連携や発信力の強化を目指した組織改革が必要となった。共同災害看護学専攻の開始もきっかけとなり、2012年度より教育研究組織再編に向けた取組が始まった。経過を表1に示す。

創設から40年あまり経過した組織における教育研究組織の再編には時間を要した。過密な学部や大学院教育、研究、運営等を大きな課題を生じることなく実施していることにより、教員からは組織再編の意義を感じるより不安が多く表出され、2012年の組織再編案は合意に至らなかった。その後、組織再編を2段階で行うこととし、2013年度は看護学専攻の組織再編に焦点を当て、新たなメンバーによる会議11回、5回に渡る教員全員参加の会議を経て合意に至り、2014年4月に教育研究組織の改組計画を本部に提出した。

新たな教育研究組織が稼働するのは2015年4月からであり、2015年2月の現時点では、看護学研究科がどのように変化していくのか未知数ではある。それでも、次年度計画のなかで新たな講座・分野名を耳にすることが増えてきた。2016年3月に行われる国際学会「第19回東アジア看護学研究者フォーラム（East Asian Forum of Nursing Scholars：EAFONS）」の開催校を引き受けたことも、グローバル化を加速させていくだろう。新たな教育研究組織が、再編の目的を達成するために、それぞれを尊重しつつ柔軟に連携していけるとよいと感じている。看護学研究科は、組織の再編に加え教員の世代交代にも直面している。看護学部が50周年を迎えるときには、教授の多くが交代している。千葉大学看護学部・看護学研究科が今後の10年先を見すえ、何を変え何を変えずに変化していくのか、内省しつつ、地道に、時に大胆に取り組み続けることが求められている。●



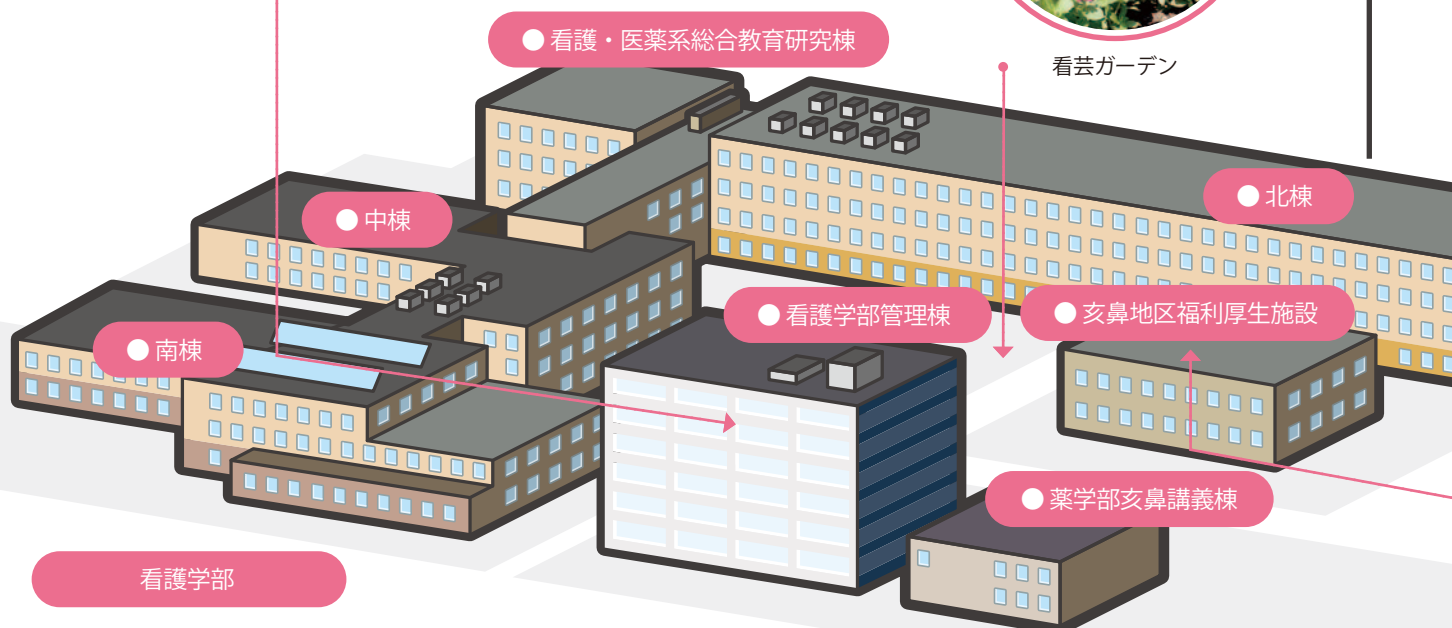
表1 看護学研究科の教育研究組織再編に向けた取組の経過

年 月	取組の内容
2012年4月	長期計画委員会 10年先を見越した教育研究分野再編についての意見交換
2012年5月	看護学研究科の教育研究組織再編に向けた取組体制 目的：今後10年先の社会情勢を見据え、本研究科の3つの目標 つねにより高きものを目指すナース・サイエンティストの育成 フロントランナーとしての知の創出・統合・配信 個人、地域、日本、アジア、世界のそれぞれに力点を置いたパイオニア を具現化し、推進するために有用な教育研究組織を再編成する。 取組体制：3つのプロジェクト：①看護学研究科の再編、②学部教育の運営体制、③災害看護学専攻の設置準備、を設置し、講師以上の全教員が いずれかのプロジェクトメンバーとなり進める。 各プロジェクトは、助教及び特任教員を含む公開討論会を適宜開催 する。
2012年6月	2つのプロジェクトによる公開討論会。討論会のテーマは、以下の通り。 ① 看護学研究科の再編：教育の機能分化、センター拡充、2専攻の分野編成と 教員配置 ② 学部教育の運営体制：学習効果と効率の両者を担保する学部教育（講義・演 習・実習） 編入生教育のあり方
2012年7月	看護学研究科の教育研究組織再編に向けた取組（中間報告）
2012年9月	長期計画委員会 看護学研究科の組織再編プロジェクトのとりまとめ（案）の提示 組織構成、育成する人材（学位）と組織との整合性、運営体制から見た現実 性の検討 分野毎に、組織再編（案）に対する意見集約
2012年10月	組織再編を2段階で行うことを決定 第1次 看護学専攻の再編（H26年度） 第2次 看護学研究科全体の再編（H31年度。高度実践看護師教育課程の検討含）
2013年4月	教育研究組織再編に対する考え方 10年後を見据えた看護学の学術構成を示すことのできる構成とする 3専攻の有機的連携、柔軟な教育体制を可能とする編成とする 人材育成の基盤となる学部教育の質を担保する教育運営体制の再構築を含む 新たな「看護学研究科の組織再編に向けた会議」プロジェクトメンバーの選出
2013年7月	6回にわたる「看護学研究科の組織再編に向けた会議」の経過報告と意見交換 研究科再編・教育課程／人材育成像についての合意と、組織再編案の提示
2013年9月	ミッションの再定義を受け、第1次組織再編における講座・分野編成の検討（意 見交換） 2回に分けて実施。3つのコンセプトに分かれ、講座・分野を検討。
2014年2月	11回にわたる「看護学研究科の組織再編に向けた会議」、5回の教員懇談会を経 て新しい講座・分野名を研究科長に答申し、長期計画委員会で承認。
2014年4月	平成27年度教育研究組織の改組計画を本部に提出し、承認。共同災害看護学専 攻が開始。
2015年4月	第1次組織再編による新体制の開始。

亥鼻キャンパス紹介



看護学部と園芸学部、DNGLの学生・教員のコラボレーションにより管理（2013年）



亥鼻キャンパス



おののはな記念講堂は、耐震設備を強化し、ホール性能を向上させました



おののはな同窓会館は斬新なデザインに生まれかわり、図書館の隣に引越（2014年）



英語によるコミュニケーションスペース開設（2015年）



看護学部 正門



開放感のある外来棟になりました（2014年）



学生食堂が（2015年）リニューアルオープン



専門職連携教育研究センター (IPERC) 開設（2015年）



今も変わらず重厚なたたずまいの医学部



薬学部も亥鼻キャンパスに引越（2011年）

看護学研究科・看護学部 紹介ポスター

故 藤田 水穂 先生

助教

2005年4月1日～

2015年6月3日

このポスターは、千葉大学
創設60周年記念行事の際に藤
田水穂先生が制作したもので
す。わたしたち看護学部にか
かわる者たちの思いを素敵に
表現してくださいました。た
いへん評判がよく、記念行事
終了後もしばらくのあいだ
は、千葉大学医学部附属病院
の廊下に展示することになり
ました。闘病されていました
が、残念ながらご逝去（享年
40歳）されました。藤田先
生の作品は現在も看護学研究
科玄関前に展示してあります。

看護学部・看護学研究科

GRADUATE SCHOOL OF
NURSING

私たちの歴史
OUR HISTORY

看護学部は昭和50年度に誕生し今年で34年を迎えました。

- 看護人材の育成にける文部省の強い気持ち
 - ★医療需要の増大に対して医師だけでは対応できない、医療人全体に人材不足
 - ★とくに医療の高度化に対応し得る看護人材を養成するには大学教育は当然
 - ★看護大学を構やそうにも、看護学の指導者層の不足があり実現が難しい
 - ★せめて国立大学にひとつは看護学部を創りたい、それも高いレベルの大学を
- 千葉大学が選ばれた理由
 - ★日本の中心部に設置しよう → 関東圏であること
 - ★医療人育成の歴史と経験の豊富な大学がいい → 医学部、薬学部がある
 - ★教育環境が整っているところ → 最先端で大きな附属病院を作ったばかり
 - ★新しい学部として迎え入れて立派に育ててほしい → 新学部を作る構想がある
- それから34年
 - 千葉大学看護学部は大学院の設立、拡充、カリキュラムの開発、入試改革など、つねに日本の看護の質の向上と教育に貢献してきました。
 - 今後とも一時の時流に流されず、一貫して看護の質の向上を目指しています。

For more info
<http://www.n.chiba-u.ac.jp>
Produced by 広報課・看護部・看護学教育課・看護学

看護学部・看護学研究科

GRADUATE SCHOOL OF NURSING

看護学部の底力宣言
—つなぐ！看護学部の知、絆、礎—
OUR FUTURE



千葉大学看護学部は、2009年4月に底力宣言を発信しました。

この底力宣言では、千葉大学看護学部が先駆的・歴史的に培ってきた総合力・開拓力・駆逐力をもとに、個々のつながりを有機的なものに変革していくことを目指しています。

上記のビジョンを達成するために以下の3つの目標を掲げます。

目標1 常により高きものを目指すナース・サイエンティストの育成

目標2 フロントランナーとしての知の創出・統合・発信

目標3 個人、地域、日本、アジア、世界のそれぞれに力点を置いたバイオニアへ

●具体的に私たちは以下の活動に取り組んでいます。

実践と知識を「つなぐ」：地域貢献への推進

学生と教員を「つなぐ」：ユニフォームプロジェクト

名刺プロジェクト

学生ボランティア活動の支援

学部と卒業生を「つなぐ」：同窓会活動の推進

千葉大学校章（Chiba）の積極的活用

看護学部と他学部を「つなぐ」：教員間の継続・発展

基礎教育と臨床現場を「つなぐ」：大学病院看護部との連携の推進

研究を世界に「つなぐ」：21世紀の成果を活用した研究の推進

若手研究者の国際研修の推進



TS
For every day
<http://www.u-chiba-u.ac.jp>

※本学より2009年4月1日より新校章が採用されています。

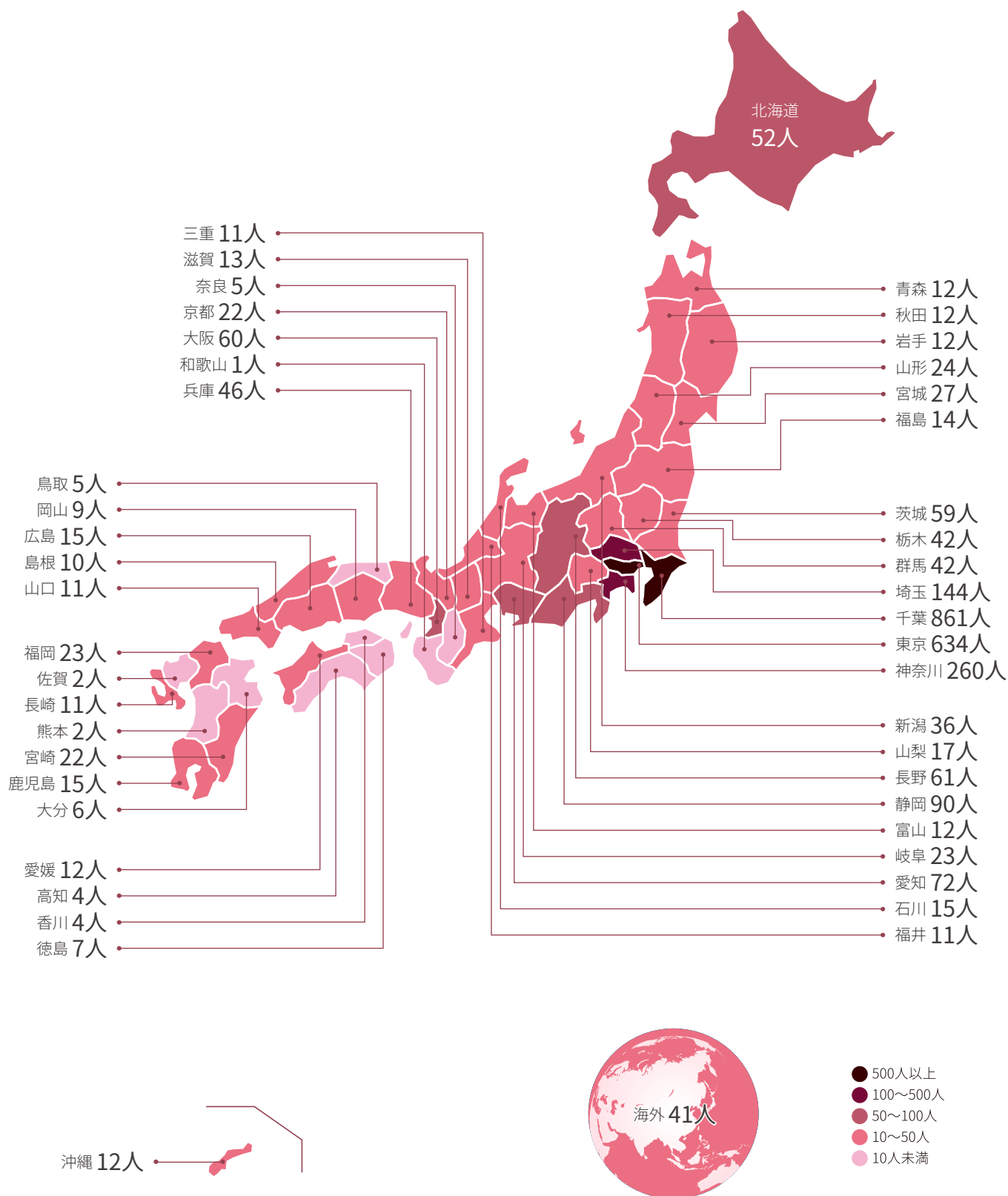


3

同窓生の動向

同窓会では、毎年、同窓生に個人票を作成していただき、同窓生の動向を調べています。今回は平成26年度の個人票をもとに、同窓生の勤務地（居住地）、最終学歴、職種について整理しました。

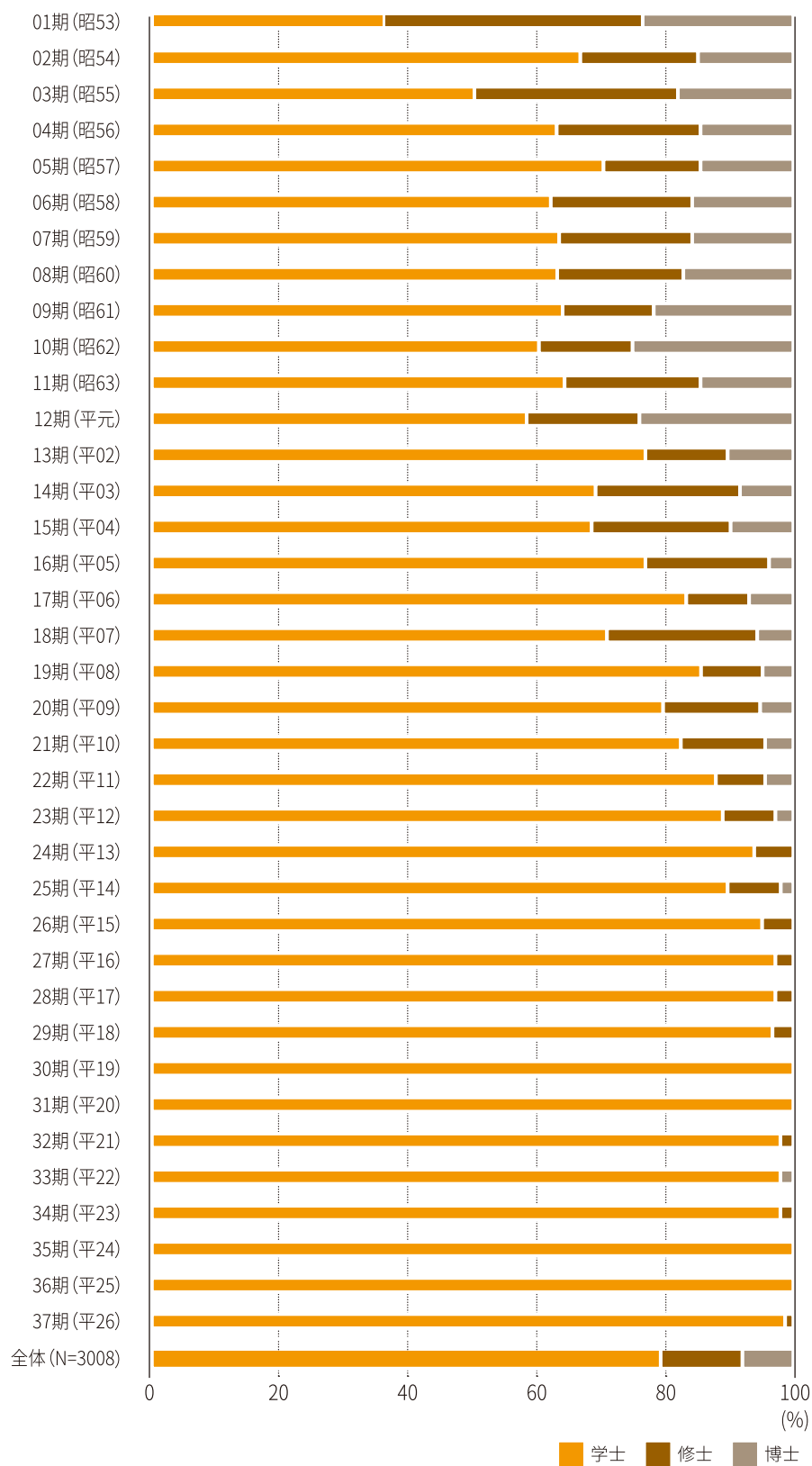
同窓生の勤務地（居住地）別人数



(N=2849)

注) 勤務地（非就労者は居住地）が確認できた者のみを集計

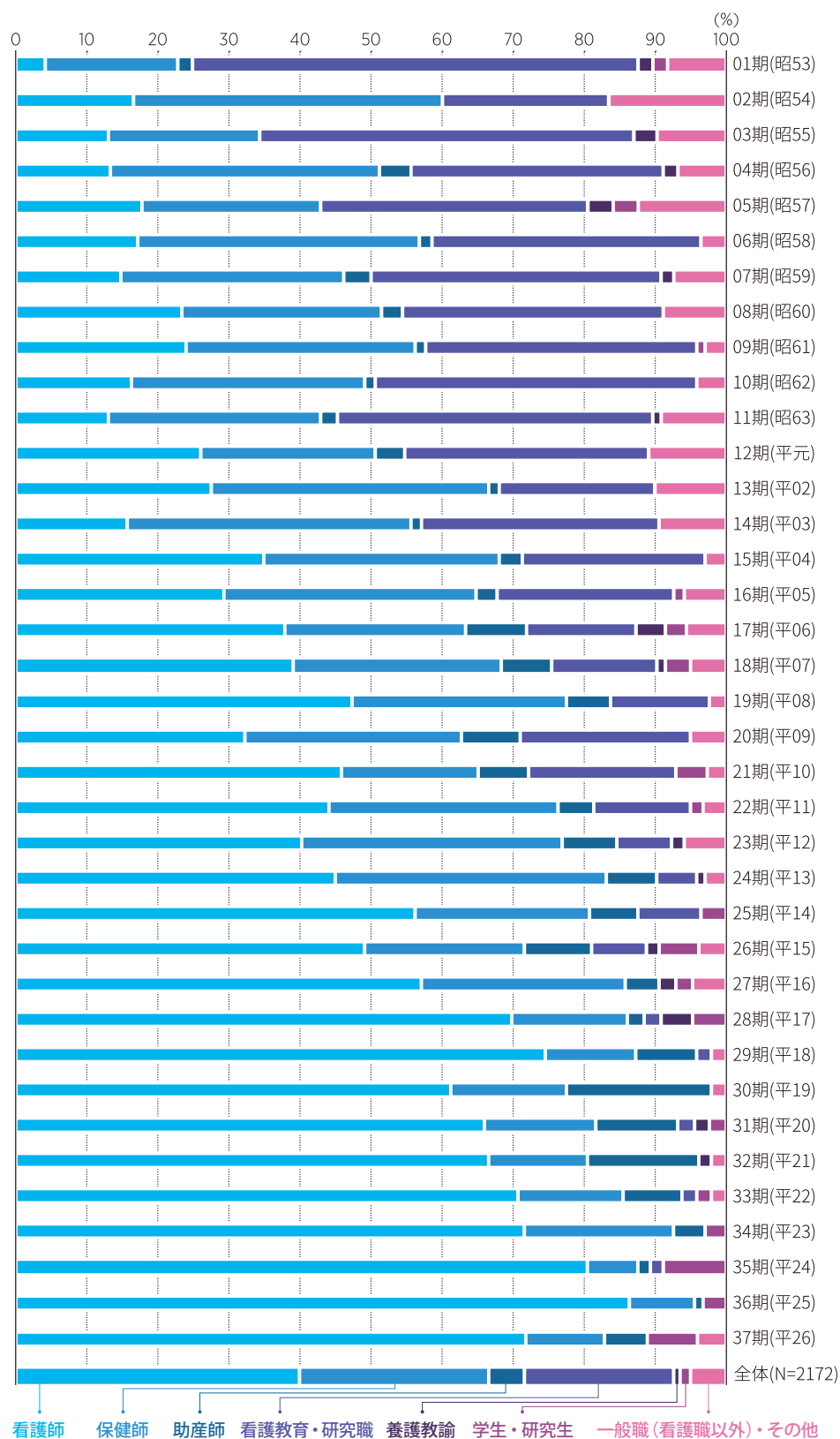
同窓生の学位取得（学士・修士・博士）の割合



注1) 学部卒業生のみ

注2) 修士・博士の学位は看護学以外を含む

同窓生の職種別割合



注 1) 学部卒業生のみ

注 2) 就労・進学していた者のみを集計

4

同窓会のあゆみ

この10年間の主な同窓会活動として、同窓会ホームページを開設し卒業生に幅広く情報を発信してきました。さらに在學生を準会員とし、入学・卒業時での記念品の贈呈や亥鼻祭への助成など、在學生と同窓会とのつながりも深めてきました。

ここでは昭和55年度に同窓会が設立されてから、看護学部創立40周年までのあゆみを紹介します。

同窓会活動の概要

(昭和55年度～平成27年度：看護学部創立40周年まで)

年度	主な活動・出来事
昭和55年度	・同窓会第1回総会開催（規約施行）
昭和60年度	・学部創立10周年記念会の実施
昭和61年度	・会員数が500名を超える
平成4年度	・会員数が1,000名を超える
平成6年度	・阪神・淡路大震災発生…各期の理事を通じて被害状況を確認する
平成7年度	・千葉看護学会設立に伴い、学術集会等のお知らせを、たよりに掲載するようになる ・看護学部創立20周年記念行事（卒業生集会）を実施
平成8年度	・総会時にミニシンポジウムを開催。以降、総会時には企画を実施することになる
平成9年度	・会員数が1,500名を超える
平成13年度	・千葉大学全体の同窓会校友会への看護学部同窓会としての参加が承認される
平成15年度	・会員数が2,000名を超える ・大学院修了生を正会員とすること、役員の評議員体制の導入について、一部規約改正する
平成17年度	・看護学部創立30周年記念集会開催 ・創立30周年同窓会記念誌を発行する
平成18年度	・名簿は4年に1度（夏季オリンピック年）作成予定となる
平成19年度	・学部生に入学時に入会を案内し、正式に準会員とする
平成20年度	・たよりに、専門看護師育成・強化プログラム、訪問看護師として再就職したい看護職者を支援する学び直しプログラム、がんプロフェッショナル養成プラン関東広域他職種がん専門家チーム養成拠点、自立した医療組織人育成の教育プログラムー専門職連携能力をコアに置いた人材育成ー、両立支援企画室のご紹介を掲載 ・看護学部・看護学研究科同窓会ホームページの開設
平成21年度	・たよりに、同窓生のための学びの場情報、看護学部同窓会ホームページ開設のお知らせを掲載する ・名簿を発行する
平成22年度	・同窓会より亥鼻祭への助成を行っていくこととする ・たよりに、大学院で学んだこと・大学院生活の紹介を特集として掲載する ・平成22年度新入生及び新3年生に、同窓会より入学及び進級記念品（ネームホルダー）を贈呈する。以降、毎年新入生に贈呈することとなる ・平成22年度の看護学部卒業生及び看護学研究科修了生に、同窓会より記念品（バラの花）を贈呈する。以降、毎年贈呈することとなる
平成23年度	・たよりに、「看護学研究科の新しいこと！紹介します」という特集記事として、人間環境制御システムのご紹介、エンド・オブ・ライフケア看護学の紹介、全国共同利用拠点としての看護実践研究指導センターの紹介を掲載する ・平成23年3月に発生した東日本大震災の被災地の同窓生に見舞状を送り、学位記や名簿の紛失、再交付の希望の有無をたずねる
平成24年度	・たよりに、千葉大学看護学部の授業科目「看護倫理」の紹介、海外で活躍する同窓生の紹介を掲載する ・名簿を発行する
平成25年度	・会員数が3,000名を超える ・たよりに、「看護学部と大学病院の人事交流」、「実習施設探訪」を掲載 ・学部生（準会員）に学術集会参加費の助成を開始した ・大学院生に入学時に入会を案内し、準会員とする
平成26年度	・たよりに、災害看護グローバルリーダー養成プログラムの紹介、同窓生による東日本大震災での支援活動の記事を掲載する
平成27年度	・たよりに、リニューアルした管理棟の紹介、千葉大学大学院看護学研究科が開催大学となる第19回アジア看護学研究者フォーラム（EAFONS）のお知らせを掲載 ・副会長を3名に増員する ・会員数3,166名、準会員393名（平成27年6月） ・千葉大学看護学部創立40周年記念集会を開催する ・創立40周年同窓会記念誌を発行する

歴代同窓会会長・副会長

(昭和55年度～平成27年度：看護学部創立40周年まで)

年 度	会 長	副会長
昭和55年度	吉岡 洋治 (1)	根本 清次 (1) 田中 裕二 (2)
昭和56年度	吉岡 洋治 (1)	金子 仁子 (1) 田中 裕二 (2)
昭和57年度	岡田 実 (1)	田中 裕二 (2) 青木知恵子 (3)
昭和58年度	北山 秋雄 (1)	内田 久恵 (1) 田中 裕二 (2)
昭和59～60年度	小島 善和 (1)	北山 秋雄 (1) 内田 久恵 (1)
昭和61年度	60年度役員及び8期生有志による活動	
昭和62年度	武田 祐子 (3)	岡田 実 (1) 楊箸 隆哉 (2)
昭和63～平成3年度	楊箸 隆哉 (2)	岡田 実 (1) 武田 祐子 (3)
平成4年度	楊箸 隆哉 (2)	武田 祐子 (3) 永井 優子 (4)
平成5年度	渡辺 裕子 (2)	武田 祐子 (3) 永井 優子 (4)
平成6年度	渡辺 裕子 (2)	武田 祐子 (3) 工藤 美子 (8)
平成7年度	渡辺 裕子 (2)	永井 優子 (4) 工藤 美子 (8)
平成8年度	渡辺 裕子 (2)	小川三重子 (6) 工藤 美子 (8)
平成9年度	中村 伸枝 (2)	小川三重子 (6) 湯浅美千代 (8)
平成10～11年度	中村 伸枝 (2)	湯浅美千代 (8) 佐瀬真粧美 (9)
平成12年度	中村 伸枝 (2)	佐瀬真粧美 (9) 林 ひろみ (9)
平成13～16年度	中村 伸枝 (2)	酒井 郁子 (5) 林 ひろみ (9)
平成17年度	中村 伸枝 (2)	湯浅美千代 (8)
平成18年度	中村 伸枝 (2)	眞嶋 朋子 (5) 杉田由加里 (11)
平成19～26年度	岡田 忍 (3)	眞嶋 朋子 (5) 大月恵理子 (6)
平成27年度	岡田 忍 (3)	眞嶋 朋子 (5) 大月恵理子 (6) 石橋みゆき (14)

総会企画一覧

(平成8年度(企画開始年)～平成27年度:看護学部創立40周年まで)

年 度	テーマ	シンポジスト・話題提供者
平成8年度	私にとっての研究と実践—それぞれの経験から	中村 伸枝 (2)、米増 直美 (12) 杉山佳代子 (12)
平成9年度	私が歩んできた道	伊藤紗智子 (2)、リウ・真田知子 (6) 三浦 一恵 (14)、中嶋 秀明 (18)
平成10年度	私と看護	八原喜久子 (1)、窪川真佐美 (6) 中山 裕子 (10)、松岡 真里 (15)
平成11年度	私が大切にしてきたこと	勝田 仁美 (1)、米山奈々子 (5) 野口 京子 (11)、近藤 えり (12) 宮下ひとみ (17)
平成12年度	私たち、これからどうしていくの	猪俣 桜子 (4)、三島千和子 (7) 深沢 恵美 (14)、小澤 治美 (20)
平成13年度	いま、看護学部・看護学研究科に望むこと	小島 善和 (1)、天谷真奈美 (7) 小関 真紀 (18) 小川真紀子 (学部2年)
平成14年度	大いに語ろう、我々の未来への挑戦	山崎 洋子 (3)、阿部 恭子 (13) 林 弥生 (16)、深沢 明美 (22)
平成15年度	ネットワークを広げよう!!	千葉 恭子 (2)、リウ・真田知子 (6) 内田 好美 (11)、戸谷 美紀 (13)
平成16年度	千葉大学看護学部・看護学研究科の原点を振り返ろう ～横田みどり先生の思い出おしゃべり～	元千葉大学看護学部教授 横田 碧 先生
平成17年度	看護学部創立30周年記念行事	
平成18年度	元気をもらって帰ろう!	ビデオレター上映、座談会
平成19年度	いろいろな場で看護を活かす	中野(香川) 恭子 (7)、山元ひろみ (20) 神田(千葉) 文子 (24)
平成20年度	看護学部今昔:進み続ける看護学部・わたし達 一同窓会を通じてつながろう～	元千葉大学看護学部教授 中村 宣生 先生
平成21年度	高齢者の健康増進 ～QOL—Promotion～	元千葉大学看護学部教授 野尻 雅美 先生
平成22年度	今明かされる… 看護学部創設の秘密 ～なぜ千葉大学に創設されたのか?～	元千葉大学看護学部教授 大室 律子 先生
平成23年度	看護学部が育んだ男達 ～Nurse Guyのキャリア形成を考える～	シンポジスト 田中 裕二 (2)、卯野木 健 (19) 角地 孝洋 (24)、後藤 大地 (32) 司会 高橋 良幸 (22)、近藤 雅巳 (23)
平成24年度	私が千葉大DNAを感じる時 ～フロンティア精神を発揮する千葉大DNA～	窪川真佐美 (6)、西村多寿子 (14) 中嶋 秀明 (18)、宮脇 直子 (33)
平成25年度	創設期の看護学部を知ろう! ～千葉大学看護学部の過去・現在・未来～	元千葉大学看護学部教授 吉武香代子先生
平成26年度	千葉大保助看法を読み解く —千葉大出身3職種のキャリア形成—	阿部 裕子 (6)、山口佐和子 (21) 西宮 岳 (28)
平成27年度	看護学部創立40周年記念事業	

同窓会企画

千葉大学看護学部創立40周年記念事業

進化し続けるフロンランナー ―看護学の未来を創る―

記念集会・懇親会

- 日時 平成27年9月13日（日）
記念集会：10：30～12：50（受付開始9：30～）
懇親会：13：20～15：20
- 場所 千葉大学大学院看護学研究科
〒260-8672千葉市中央区亥鼻1-8-1
記念集会：みのはな記念講堂（医学部記念講堂）
懇親会：みのはな同窓会館

記念集会プログラム

- 10：30～ 同窓会長ご挨拶
- 10：35～ 看護学研究科長ご挨拶
- 10：45～ 看護学研究科附属専門職連携教育研究センター長ご挨拶
- 11：00～ シンポジウム

「進化し続けるフロンランナー：未来のキャリアパスを拓く」

★臨床や各界で活躍し自ら新たなキャリアパスを切り拓いてきた卒業生・修了生、
そして未来へのキャリアパスを踏み出そうとする在学学生に、道程や未来への夢、
看護学部への期待等について語っていただきます。

シンポジスト

「臨床看護実践を究める」

千葉大学医学部附属病院 看護師長 奥 朋子（12期）

「研究者の道を歩む」

宮崎大学 テニユアトラック推進機構看護学系講師 吉永 尚紀（29期）

「企業において看護学を活かす」

ユニチャーム グローバルマーケティング本部 山元ひろみ（20期）

「省庁等において政策に携わる」

千葉大学大学院看護学研究科 准教授（前文部科学省看護教育専門官） 石橋みゆき（14期）

「看護管理者として次世代を育成する」

千葉県千葉リハビリテーションセンター 看護局長 荒木 暁子（10期）

看護学研究科・看護学部ポスターの展示

記念誌の発行・販売

- 送料込み 1冊 1,250円
- ★記念集会受付でも販売しています。

同窓会企画 40周年記念事業

企画委員紹介

氏 名 (期)	
同 窓 会 長	岡田 忍 (3)
同 窓 会 副 会 長	眞嶋 朋子 (5) 大月恵理子 (6)
記 念 事 業 委 員 長	石丸 美奈 (12)
記 念 事 業 副 委 員 長	石橋みゆき (14)
会 計	渡邊 美和 (20) 島村 敦子 (26)
庶 務	永田亜希子 (18) *同窓会記念集会実行委員長 小川 俊子 (24)
同 窓 会 記 念 集 会 企 画 担 当	○野崎 章子 (11) 佐藤 奈保 (13) 小澤 治美 (20) 松田 直正 (24)
同 窓 会 記 念 誌 担 当	○坂上 明子 (11) 時田 礼子 (21) 丸山 優 (21) 橋内 伸介 (32) 阿部由喜湖 (33)
【学部】40周年記念事業企画委員	○手島 恵 (修) 田中 裕二 (2) 酒井 郁子 (5) 池崎 澄江 (他)

同窓会記念誌作成は、宮崎美砂子研究科長、彌富敏治事務長、若月雄二副事務長、時田直子総務係係長はじめ、総務・学務系の皆様にも多大なるご協力いただきました。ありがとうございました。

編集後記

平成26年4月に同窓会と看護学部合同の看護学部創立40周年記念事業企画委員会が発足し、5月から記念誌担当者会議が始まりました。40周年を迎え、看護学部として成熟し、発展しつつある看護学部の今と未来を語る記念誌にしようと、「進化し続けるフロンタナー」を合言葉に、皆の意見を出しあいました。

卒業生・在校生からのメッセージを集めようと看護学部創立40周年facebookも作ったものの、なかなかメッセージが集まらず、慌てた頃もありました。しかし、これまで看護学部の創立・発展に貢献してくださった先生方や卒業生・在校生の皆様から温かいメッセージを頂戴し、記念誌の編集を通じて、多くの方々と交流できたのは、思った以上に楽しく、同窓生のありがたさを実感する日々でした。ご協力くださった皆様に心より御礼申し上げます。

記念誌の表紙と冊子全体のデザインは、博士論文の審査直前という非常にお忙しい中、千葉大学工学研究科の張益準さんがご担当くださいました。斬新なデザインに記念誌担当者の心はあっという間に奪われました。本当にありがとうございました。

また、写真やアイデアを提供して下さったり、原稿・メッセージ集めに奔走して下さった多くの皆様のおかげでなんとか発行にこぎつけました。ありがとうございました。

この記念誌が、同窓生の強いつながりを感じていただけるきっかけになれば幸いです。

10年後、50周年を迎える時に、私たちは何をしているだろうか、千葉大学看護学部・看護学研究科は世界に向けてどのように発展しているだろうかと思像する喜びを感じつつ、皆様のお手元にこの記念誌が届くことを楽しみにしております。

平成27年8月

記念誌担当 坂上明子、時田礼子、丸山 優、橋内伸介、阿部由喜湖、手島 恵、酒井郁子、田中裕二、池崎澄江

千葉大学看護学部創立40周年同窓会記念誌

平成27年8月28日発行

編集・発行 千葉大学看護学部創立40周年記念事業企画委員会
〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号
Tel.043-222-7171（代表）

デザイン 張 益準

印刷 株式会社 正文社
〒260-0001 千葉市中央区都町1丁目10番6号
Tel.043-233-2235



School of Nursing
40th Anniversary

School of Nursing
Chiba University

1975-2015

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学看護学部・看護学研究科

ホームページ www.n.chiba-u.jp

同窓会ホームページ www.n.chiba-u.jp/dousoukai/

